

韓国母子保健プロジェクト アフターケア調査団報告書

平成5年3月

国際協力事業団
医療協力部

医 一

JR

92 - 36

韓国母子保健プロジェクト アフターケア調査団報告書

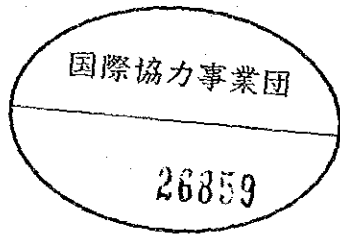
JICA LIBRARY



1115935(7)

平成5年3月

国際協力事業団
医療協力部



序 文

韓国母子保健プロジェクトは、ソウル市順天郷大学内に設立された「韓国母子保健センター」の機能強化と同センターを中心とする全国母子保健ネットワークの整備を通じて、同国の母子保健の向上を図ることを目的として、1984年8月から5年間のプロジェクト方式技術協力が行われたものである。5年間の協力の後、周産期管理等の分野で若干の補足協力をを行うために協力延長を行い、1991年7月に協力を終了した。

当事業団は、本プロジェクトに対する協力終了後2年8か月が経過した時点において、プロジェクトのその後の推移及び問題点を調査し、補完的協力の必要性、可能性について検討することを目的として、アフターケア調査団を1993年3月18日から同月24日まで派遣した。本報告書は同調査の調査結果を取りまとめたものである。

本調査の実施にあたり、多大のご協力をいただいた調査団員の皆様に対し、深甚なる謝意を表する次第である。

平成5年3月

国際協力事業団
理事 西野世界

目 次

序 文

| | |
|-----------------------|----|
| 1. アフターケア調査団の派遣 | 1 |
| 1-1 調査団派遣の背景と経緯 | 1 |
| 1-2 調査団の構成 | 2 |
| 1-3 調査日程 | 2 |
| 1-4 主要面談者 | 3 |
| 2. 要 約 | 4 |
| 3. 調査結果 | 6 |
| 4. 調査・協議結果の概要 | 13 |
| 5. アフターケア協力計画 | 15 |

資 料

| | |
|----------------------------------|----|
| 1. 協議議事録（ミニッツ） | 19 |
| 2. 故障機材調査結果 | 23 |
| 3. 日韓技術協力による韓国母子保健CENTER現況 | 25 |
| 4. 母子保健に関する関係資料（保健社会部） | 77 |

1. アフターケア調査団の派遣

1-1 調査団派遣の背景と経緯

(1) 本プロジェクトの経緯と目的

韓国政府は第5次経済開発5ヶ年計画において、母子保健事業を緊急課題として取上げ、順天郷大学内に韓国側負担により設立された「韓国母子保健センター」に対し、その機能強化及び同センターを中心とする全国的母子保健ネットワークの整備を通じ、同国の母子保健の向上を図る目的をもって、1979年より重ねて日本国政府に技術協力を要請越した。

これを受けて、日本国政府は1984年8月より5年間のプロジェクト方式技術協力による技術移転に合意し、実施することとなった。

プロジェクトは(1)NICU(新生児集中治療)(2)周産期管理(3)生殖医学(4)農村地域の母子保健等の分野に対して技術移転が行われ、NICUについては予想以上の効果を上げ、周産期管理・生殖医学についても当初の目標をほぼ達成し、地域母子保健の分野でも同センターを中心に全国的ネットワーク作りを行うという段階まで到達した。1988年11月に派遣した評価調査団の結果をうけて(2)以降の分野に対して若干の補足をすべく1年間の延長を行ったうえで1981年7月に終了した。

6年間の協力期間中に延48名の専門言えの派遣、25名の研修員の受入れ、3億円以上の機材の供与が行われ、同センターは十分にその基礎がためをなした。

(2) 調査目的

今次、アフターケア調査団は、本プロジェクトが終了後3年を経過した現時点において我が国及び韓国の関係機関と以下の点について協議し、プロジェクトのその後の推移及び問題点を調査のうえ、補完的協力の必要性および可能性につき検討することを目的として派遣された。

- 1) 韓国の母子保健の現状
- 2) 本プロジェクトの関連機関の実施体制、運営体制、活動状況
- 3) 帰国研修員の定着状況及び活動状況
- 4) 供与機材の使用稼働状況の調査とスペアパーツ、消耗品の補給と新規機材供与の必要性の検討
- 5) 韓国の母子保健システム及び同センターの位置付け
- 6) 以上の点に関する調査結果に基づき、アフターケア協力計画を策定し、ミニッツを署名交換し、協力実施に必要な要請書の取り付けを促進する。

1-2 調査団の構成

| | | |
|----------|-------|---------------------|
| 団長（総括） | 飯塚 理八 | 慶應大学医学部産婦人科学教室名誉教授 |
| 団員（母子保健） | 青木 菊麿 | 社会福祉法人 恩賜財団母子愛育会 |
| 団員（産婦人科） | 末岡 浩 | 慶應大学医学部産婦人科学教室助手 |
| 団員（協力計画） | 奥田 久勝 | 国際協力事業団医療協力部医療協力第1課 |

1-3 調査日程

| 日順 | 月日 | 曜 | 時 間 | 内 容 | 備 考 |
|----|------|---|---|---|--|
| 1 | 3.18 | 木 | 16:00 ~17:30 | 東京⇨ソウル (JL-951 12:45ソウル着) 韓国母子保健センター | 現状報告・ミニッツ協議 |
| 2 | 19 | 金 | 10:00 11:00 12:00 15:00 15:30 | 日本大使館 同センター カウンターパートとの昼食会 東京⇨ソウル (JD-251 13:55ソウル着) 科学技術処(技術協力局) 保健社会部(保健局) | 表敬、ミニッツ協議 総長と面談 青木団員 表敬、ミニッツ協議 表敬、ミニッツ協議 同局長と面談 |
| 3 | 20 | 土 | 10:00 11:00 | 保健社会部(保健局) 同センター | ミニッツ署名 協力内容・日程について 打ち合わせ |
| 4 | 21 | 日 | 11:00 | ソウル⇨東京 (JL-952 14:00発) 順天郷大学(天安市)視察 | 飯塚団長 末岡・奥田団員 |
| 5 | 22 | 月 | 10:00 15:00 | 同大学天安病院視察 同センター | 機材保守管理状況調査及び協議 |
| 6 | 23 | 火 | 10:00 15:00 18:30 | 同センター 日本大使館 同大学総長主催歓送会 | 最終協議・打合せ 結果報告・帰国挨拶 |
| 7 | 24 | 水 | | ソウル⇨東京 (JL-952 14:00発) | 青木・奥田・末岡団員 |

1-4 主要面談者

(保健社会部)

保健局長：趙 炳倫

家族保健課長：韓 忠吉

家族保健係長：丁 学基

(科学技術処)

技術協力局技術協力第1課長：李 憲圭

 " 課 ：金 鳥天

(日本大使館)

經濟部 長：西田芳弘参事官

經濟部 部：阿部孝哉一等書記官

 " ：張 東華調査官

政治部 部：下村正之審議官

(順天郷大学)

理事長 長：徐 錫助 (電話のみ)

 総 長：趙 泰鍋

(韓国母子保健センター)

所長兼病院長：李 尚柱

行政室 長：李 鐘勳

産婦人科：李 權海

 " ：李 任順

 " ：李 順仲

小児科 科：李 東煥

 " ：朴 在玉

 " ：金 彰輝

(保健専門大学)

理事長 長：朴 永夏

(天安順天郷病院)

院 長：朴 希柱

副 院 長：趙 茂植

2. 要 約

韓国母子保健プロジェクトアフターケア調査団

本プロジェクトは、韓国内に設置された韓国母子保健センターが、1984年から1990年にわたり我が国の援助により同国の全国的な母子保健ネットワークの核となりその向上を図る目的を果して達成したかなどを、その後の経過をふまえて、アフターケア協力性の有無、そして必要ならば協力計画について韓国側と協議しその結果をミニッツをとりまとめることが本調査団の使命である。

調査内容として(1)韓国母子保健状況(2)韓国の母子保健システムの現状及び当センターの位置づけについては、資料・日韓技術協力に依る韓国母子保健Center現況(1993年3月)によって審らかにすることができる。また飯塚・末岡の報告にも述べてある。概括的に申せば順天郷大学内に設置された母子保健センターが、韓国内の地域母子保健総合センター(11箇所)の基幹として発展してきたこと、これは韓国母子保健法が改定されこの様な民間機関が官民共同事業に参画し核となり得ることとなったのである。(これについては本職が1988年評価調査団としてその活動状況を評価調査した折にも精しく報告している)その後今日に至るまで着々と成果をあげていることは資料によってみるることができる。ただし発足以来もそうであったようにその予算については国家的な補助は古くすべて自前ということであり、調査にあたりまた専門家の一員として来韓するたびに公衆的啓蒙、相互の情報交換等にかかわる予算の少なきことを憂うのみであった。それについては変化をみていない現状である。ソウルにおける当母子保健センターに限ってみれば設立以来順調に機能し成果をあげており、スタッフの大部分は日本国に研究員として来日されしかも現在は診療科の部長、副部長など中核として活動されていることは心強いことである。(後述)

この様に日本国における研修の実があがっていることは本職が本プロジェクトに当初より関わってきたものの一人として誠に感慨深いものがある。ソウル到着以来多くのスタッフの方々と協議する上でもすべてソウルまたは日本において比較的長い時日を共に研修しあったものとしての親近感があった。

このことは、機材の供与、技術指導という面だけでなく極めて高次の大切なものと云わねばなるまい。人的面の交流は極めて成果をあげたと思うのは本職ばかりでなく大方の意見と信ずる。このような観点から当然、アフターケア協力を推進することが妥当である。数次の協議を経て次のことを合意している。

- 1) 活動内容は①NICU②周産期管理の2項にする
- 2) 機材供与はプロポーザルの品目すべてというわけに行かないので優先順位をつける。調査団としてはその必要性を検討、帰国後予算の範囲内で検討する。修理可能なものは出来るだけカバーするが、これも予算内でのことである。そのためリストを作成すること。ミニッツ

にはリストは添付しない。

3) 専門家派遣は小児科2名、産婦人科1名とする。

(しかしこれもフレキシブルでよい。)

なお本プロジェクトの範囲ではないが、訪日研修生を希望するリクエストが強かった。これは本部における研修の評価が高いことの示唆でもある。これについては本職も大使館において担当官に要望があることを伝えておいた。

かくて1993年3月20日、保健社会部趙柄倫局長と本職とでミニッツにサインすることができ、本プロジェクト（アフターケア）が推進されることとなる。

3. 調査結果

3-1 産婦人科領域からみた現状調査結果

(1) 韓国母子保健の現況

韓国母子保健プロジェクト発足の趣旨として、周産期死亡率や妊産婦死亡率等からみた韓国母子保健の遅れが指摘されてきた。当プロジェクト発足当時と現在の状況には開発途上国から先進国の数字に近い著しい変化を数字の上でも認めている。表1に示す通り、出生率は1980年23.4から1990年には15.6と国民統計上も先進国並みに減少するという背景がある。母子保健の対象人口は表2に示すように、人口増加に伴って増加を示している。1990年の韓国における周産期死亡率は12.8、妊産婦死亡率は3.0(表3)を示し、日本や米国に比較して高い値であることは事実である。長期展望の下に、今後の母子保健の普及と発展を更に追究することが必要である。

(2) 韓国母子保健センターの活動状況

1) 人 員

統計88名の医師のうち、産婦人科に従事する医師数は43名で、専属スタッフ7名の下に教育研修員が訓練をうけて診療活動を行なっている。この専属スタッフの多くは、国際協力事業団による日本への研修生派遣で研修後帰国した人員である。産婦人科の李権海部長をはじめ、当施設における重要な地位に就任されており、帰国後も各自の研修分野において、日本で習得した技術や知識をもとに韓国母子保健センターの発展に大きく寄与していることは想像に難くないが、さらに多くの学会活動などを通じて韓国母子保健医学への寄与も多大であったことも事実である。

2) 母子保健センター活動の実績

韓国母子保健センタープロジェクトによる技術指導で医療機器の援助によって開始された母子保健活動は、診療の件数という数的な増加のみならず、周産期死亡率や妊産婦死亡率に表われる質的な向上に大きく寄与した。

表4に1985年より1992年までの年次別、活動実績を示す。1985年プロジェクト開始時期の分娩総数883件から、1992年には2,914件を数えるまでに、母子保健センターの規模が急速に拡大されてきたことは数の上でも疑いのない事実である。この間の周産期死亡率は1991年の38.0を最高値とし、1992年には16.5の期間中、最低の値に推移している。また妊産婦死亡率は1990年以降各年1名の死亡を認めているが、極めて低レベルに維持され、分娩数が3.4倍に増加したことに対して管理状況の悪化が少なくとも発生しなかったことを示唆している。その管理状況を示す数値として、妊娠中毒症発生数が抑止され、妊婦診療における健診機構と妊婦指導の実施が効果的に機能してきたことを知ることができる。また帝王切開数および率の増加は分娩監視装置や超音波機器の活用による危急状態の診断向上によるところが多いと考えられる。これが周産期死亡率などの総合的な数値の低下ないしは維持に大きく貢献し

てきたであろうことは推察に難くない。

新規技術の指導内容として体外受精が開始され、卵管手術等を含め生殖医学とくに不妊診療の技術向上が効果を上げ、特にこの分野の今後の発展が期待できる状況である。

3) 専門家の来韓指導の効果

韓国母子保健プロジェクトによりアフターケアの訪韓を含め、8次に亘り総計46名の日本人指導者が訪韓し、産婦人科、小児科、外科、眼科、検査、看護などの視点から講義や技術指導を行なってきた。来韓指導の期間は日本への派遣研修に比較し各々短期ではあったが、アップ・トゥ・デイトな医療内容の指導や講義は韓国の母子保健に携わる人々にとって極めて大きな影響を与えたといっても過言ではないだろう。また、訪韓視察により、その時点の状況で必要な医療機器や技術の把握ができたことで、広範囲の専門技術を韓国母子センターに導入でき、その医療水準はすでに先進国の域は達してきたといえる。

4) 派遣研修員の帰国後の活動状況

韓国側から日本へ派遣された研修員の数は25名に及び日本での各分野における専門技術の修得後に、帰国後も韓国で診療への応用や後進の指導に当たっている。これらの研修は各専門分野への研修のため、極めて多岐に亘る分野を網羅し、医療統計や精神科・形成外科にまで及んだ。

帰国後の活躍は目ざましいもので、順天郷大学の枢要な地位につき、臨床、研究、教育の各面から多大な貢献をしている。すでに4名の退職者（うち産婦人科領域2名）があるが、大学病院所属の方々であり、後進への教育を充分に行なってからの退職であって、研修事項は着実に普及、発展を続けている。周産期医学、不妊症医学は表4に示した統計上の数値に直接反映されているように多大な発展を示している。

その他の活動状況を表5に示すことにする。表5-1は、周産期統計、表5-2は不妊症診療統計、表5-3は羊水及び絨毛採取による出生前染色体検査の統計であるが、極めて円滑にこれらの技術が導入され、診療の中に取り入れられてきたことは、当プロジェクトの成果であることに相違ない。

派遣研修員が専門技術を修得したのちに、それが個人の技術にとどまらず、教育研修医療機関の中で新しいメディカル、パラメディカルの人々への教育に用いられることは、その技術普及にとって極めて重要な鍵である。この点が今回の視察で、最も効果的に行なわれていた成果を確認しえたことが、極めて印象的であった。

また帰国者が学会活動を通じてその成果を韓国内に示してきた成果についても、高い評価をするに至ったことを報告する。

5) 供与機器の利用状況および維持・管理状況

韓国母子保健プロジェクト開始後すでに9年が経過し、1985年以降に寄贈した医療機器の中には老朽化や補修を要する状況に直面しているものもある。殆どの日本製機器は現地の代

理店、支社を通じて補修可能であったとの報告を受けている。しかし、すでに生産が中止され、部品の補充が不可能となった機器、耐久限度を越えた機器があることも事実である。今回のアフターケア視察では、これらの補充可能な部品について調査を行ない供給の方向で検討した。また、超音波断層装置はその利用頻度の急速な増加と、高機能機の必要性から供給を検討する必要があると考えられた。

導入機器の維持・管理は極めて良好になされており、修理への対応も丁寧になされていた。利用状況はその殆どの品目において充分かつ定期的ないし恒常的に使用されていた。

(3) 韓国母子保健の今後への期待

本プロジェクトにより順天郷大学内に設置された韓国母子保健センターが、韓国内に地域別に設置された母子保健センターの中心的役割をにない、活動を行なっている。この事業は組織形成と先進医療技術の指導とそれに必要な機器の導入という基礎作りが終了した状況と判断してよいのではないかと思われる。そしてそれが極めて効果的に作用した状況である。

しかし今後これらの高度先進医療を普及するには、この機関で研修を受けた専門家が各地域で母子保健医療に携わり、更に広く普及に貢献することが大切と考える。開設の推進者であられた俞前教授は退職後もボランティアで全国の母子保健指導に当たられているとこのことを耳にし、このような熱心な指導者や多くの実地携わる人々の努力が韓国全体の母子保健向上に寄与することを期待して止まない。

表1 韓国人口統計と将来の予想

人口現況 (主要人口指標)

| 区 分 | 1960 | 1970 | 1980 | 1990 | 2000 | 2021 | 1990 | | |
|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|
| | | | | | | | 世 界 | 先進国 | 開途国 |
| 総人口(千名当) | 25,012 | 32,241 | 38,124 | 42,869 | 46,789 | 50,586 | 5,292,178 | 1,205,193 | 4,086,985 |
| 出生率(千名当) | 42.1 | 29.9 | 23.4 | 15.6 | 14.2 | 10.0 | 26.7 | 14.3 | 30.4 |
| 死亡率(千名当) | 12.1 | 9.4 | 6.7 | 5.8 | 6.1 | 9.7 | 9.6 | 9.7 | 9.6 |
| 自然人口増加率(%) | 3.00 | 2.04 | 1.67 | 0.98 | 0.81 | 0.03 | 1.71 | 0.46 | 2.08 |
| 移民率(千名当) | — | 0.4 | 1.0 | 0.5 | 0.4 | 0.4 | — | — | — |
| 人口成長率(%) | 3.00 | 2.02 | 1.57 | 0.93 | 0.77 | -0.01 | 1.71 | 0.46 | 2.08 |
| 人口密度(名/km ²) | 254 | 382 | 385 | 432 | 471 | 510 | 39 | 21 | 52 |
| 合計出産力(名) | 6.0 | 4.5 | 2.7 | 1.63 | 1.63 | 1.63 | 3.37 | 1.90 | 3.81 |
| 平均寿命 | 55.3 | 63.2 | 65.8 | 71.3 | 74.3 | 77.0 | 62.3 | 74.0 | 60.6 |
| 男子(名) | 53.0 | 59.8 | 62.7 | 67.4 | 71.3 | 74.9 | 60.8 | 70.4 | 59.4 |
| 女子(名) | 57.8 | 66.7 | 69.1 | 75.4 | 77.4 | 79.1 | 63.8 | 77.7 | 61.9 |
| 人口構造 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 0-14(%) | 42.3 | 42.1 | 34.0 | 25.8 | 21.2 | 15.8 | 32.4 | 21.4 | 35.6 |
| 15-64(%) | 54.8 | 54.6 | 62.2 | 69.2 | 72.0 | 71.1 | 61.4 | 66.5 | 60.0 |
| 65+(%) | 2.9 | 3.4 | 3.8 | 5.0 | 6.8 | 13.1 | 6.2 | 12.1 | 4.4 |
| 扶養比 | 82.6 | 83.9 | 60.7 | 44.5 | 33.8 | 40.6 | 61.3 | 50.3 | 65.0 |
| 平均年齢(歳) | — | 23.6 | 26.0 | 29.5 | 32.9 | 39.8 | 28.3 | 35.6 | 26.1 |
| 都市化率(%) | 28.0 | 41.1 | 57.3 | 74.4 | 80.6 | — | 42.7 | 72.7 | 33.9 |

注：1) 自然人口増加率=出生率-死亡率

2) 人口成長率=出生率-死亡率-移民率

3) 扶養比=(15歳未満人口+65歳以上人口)/(15-64歳人口)

*資料：統計総、将来人口推移、'91.4

表2 韓国母子保健の現況 (対象人口)

(単位：千名)

| 区 分 | 1985 | 1990 | 1993 | 2000 | 2021 |
|-------------------------|---------|---------|---------|---------|---------|
| 総人口 | 40,806 | 42,793 | 44,056 | 40,789 | 50,586 |
| (%) | (100.0) | (100.0) | (100.0) | (100.0) | (100.0) |
| 母子保健 対象人口 | | | | | |
| 計 | 14,897 | 14,977 | 15,919 | 16,691 | 13,231 |
| (%) | (36.5) | (35.0) | (36.1) | (35.6) | (26.2) |
| 0-5歳 | 4,661 | 3,971 | 3,948 | 4,032 | 3,007 |
| (%) | (11.4) | (9.3) | (8.9) | (8.6) | (5.9) |
| 妊 婦 | 669 | 701 | 705 | 686 | 503 |
| (%) | (1.6) | (1.6) | (1.6) | (1.5) | (1.0) |
| 15-44 女子人口 (妊婦除外) | 9,567 | 10,305 | 11,266 | 11,973 | 9,721 |
| (%) | (23.5) | (23.1) | (25.6) | (25.6) | (19.2) |

※資料：統計総、将来人口推進'91.4

表3 乳児および妊産婦死亡率の国際比較

| 区 分 | 国 名 | 韓 国 ('90) | Singapore ('88) | 日 本 ('89) | 米 国 ('88) | 英 国 ('88) |
|--------------|-----|---------------|---------------------|---------------|---------------|---------------|
| 乳児死亡率(千名当) | | 12.8 | 7.0 | 4.4 | 9.9 | 9.0 |
| 妊産婦死亡率(百万名当) | | 3.0 | 0.7 | 0.96 | 0.66 | 0.59 |

※資料：統計総、死亡原因 統計年譜、'90

表4

| | 1985.7 | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 |
|-----------|--------|------|------|------|------|-------|-------|-------|
| 周産期死亡率 | 17.9 | 24.4 | 19.3 | 21.0 | 22.0 | 25.7 | 38.0 | 16.5 |
| 妊産婦死亡数(率) | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1(38) | 1(32) | 1(34) |
| 新生児死亡率 | 6.3 | 10.9 | 8.4 | 6.2 | 7.7 | 6.1 | 7.9 | 11.7 |
| 妊娠中毒症数 | 17 | 40 | 26 | 44 | 63 | 86 | 79 | 52 |
| 分 娩 数 | 883 | 1576 | 1553 | 1614 | 2518 | 2613 | 3069 | 2914 |
| 帝王切開数 | 211 | 350 | 420 | 457 | 649 | 703 | 810 | 955 |
| 体外受精 | 0 | 0 | 0 | 9 | 10 | 18 | 38 | 33 |
| 卵管手術 | 5 | 9 | 29 | 27 | 15 | 27 | 28 | 38 |

表 5 - 1

| | | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | 総 計 |
|---------|------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| Doppler | | | | | | | 239 | 239 |
| N S T | | 124 | 306 | 369 | 460 | 672 | 816 | 2747 |
| 周産期死亡率 | | 19.3 | 21.0 | 22.0 | 25.7 | 38.0 | 16.5 | |
| 母性死亡率 | | 0 | 0 | 0 | 38.2 | 32.6 | 34.3 | |
| 超音波 | 産科 | 1642 | 1730 | 1771 | 1619 | 2628 | 3022 | 12412 |
| | 婦人科 | 834 | 817 | 794 | 770 | 762 | 880 | 4857 |
| | 超音波総数 | 2476 | 2547 | 2565 | 2389 | 3390 | 3902 | 17269 |
| 分娩統計 | N S V D | 1133 | 1157 | 1869 | 1910 | 2259 | 1959 | 10287 |
| | C-section | 420 | 457 | 649 | 703 | 810 | 955 | 3994 |
| | 合計 | 1553 | 1614 | 2518 | 2613 | 3069 | 2914 | 14281 |
| 先天性奇形 | Hand & CNS | 1 | 1 | 5 | 7 | 6 | 13 | 33 |
| | Trunk | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 |
| | G-I & G-U | 0 | 0 | 2 | 3 | 6 | 12 | 23 |
| | Extremity | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 4 | 8 |
| | 総計 | 2 | 3 | 7 | 11 | 14 | 30 | 67 |

表 5 - 2 不妊治療実績

- ① Tuboplasty (卵管形成術) - Tubal reanastomosis 101 Case
 ② AIH, AID (配偶者、非配偶者間人工受精) - AIH52名
 ③ Ovulation induction (排卵誘導)
 IVF-ET (体外受精-胚移植) : 103 case
 GIFT (配偶者卵管内移植) : 5 case

表 5 - 3 羊水および絨毛染色体検査実績

| | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 |
|----------------|------|----------|------------------------------|---|--|------------------------------------|
| amniotic fluid | 2 | 35 | 70 | 56 | 50 | 46 |
| CVS | 2 | 61 | 192 | 209 | 248 | 220 |
| Total | 4 | 96 | 262 | 265 | 298 | 266 |
| Anomaly | | inv(9):1 | 13p+:1 14p+:1 inv(9):6 | 13p+:1 15p+:1 inv(9):5 | inv(9):6 +18:1 t(7:15):1 t(13:14):1 rec3nv:1 | inv(9):3 t(13:14):1 t(2:8):1 |
| | | | 45.x/47.xxx:1 47.xx+18:1 | 47.xx+21:1 45.xx.t(14:19) (q11;q11):1 | | |

3-2 小児科を中心とした現状調査結果

(1) 協力分野の技術レベル

韓国における母子保健のレベルは、1984年今回のプロジェクトが開始されて以来著しく向上したと考えられる。統計として示されている数字を比較してみると、例えば乳児死亡率は1980年には36.8であったが、今回の調査では1990年には12.8まで減少している。乳児死亡率は過去においても徐々にではあるが減少傾向を示していたが、韓国母子保健プロジェクトが開始されてからの減少率は特に顕著である。このほか妊産婦死亡率、施設分娩率など、何れも著しく改善されているのが今回の調査における印象である。従って、母子保健全体としての技術レベルの向上は著しいものと考えられる。

この母子保健におけるレベルの向上は、①韓国の経済状況の向上、②医療保健制度の改善、③母子保健法改訂に伴う民間施設の参画、④分娩に対する保健制度の適応、などによることも考えられるが、それと共に韓国母子保健プロジェクトによる順天郷大学韓国母子保健センターを中心とした全国92箇所の母子保健センターのネットワークの確立、それに伴う母子保健思想の普及、官民それぞれの関係者の努力によるところが著しいと思われる。

念願であった韓国における新生児マス・スクリーニングの導入は、地域母子保健事業の一つとして一部の道で開始され、次第に全国に拡大されつつある。一部の予算は政府から交付されることになり、これも今後増額されることが期待されている。発見される疾患数は、日本よりは多い傾向にあるようであり、韓国母子保健センターの努力が政府（保健社会部）を動かして全国規模に迄発展していくことが期待されている。

(2) プロジェクト研修生の帰国後の活動状況

順天郷大学としては、研修生による研究会が結成されており、お互いに情報交換や継続的な技術協力を目的として活動している。帰国後各自の分野で研究を続け、全国の地域母子保健センターに対するリーダーの役割を十分に発揮しているのが現状である。研修生は韓国母子保健センターの発展に十分に貢献していると考えられ、そこを中心とした全国10箇所の地域母子保健総合センターとの連携、更に第一線の母子保健センター82箇所とのネットワークは確立されている。これに対するリーダーの役割を担当出来るように成長しており、プロジェクト研修生の活動には十分に評価されるところがある。研修生は各自の分野の研究に努力し、それぞれの専門分野での立場が強化されている。更にこれら研修生の教育を受けた韓国母子保健センターのレジデントは全国各地で活躍しつつあり、間接的な経路においても韓国母子保健プロジェクトは全国に波及しつつあると考えられる。その他この韓国母子保健センターの存在は発展途上の諸外国からも注目されており、韓国国際協力事業団（KOIOCA）としてこの問題を取り上げつつあると聞き及んでいることはきわめて価値があることと考えられる。

研修生各自の詳細な活動状況は割愛するが、韓国母子保健センターにおける医療活動も上昇の一途を辿っており、その中でも特に周産期医療、新生児医療の充実・発展には注目するとこ

ろがある。全国の地域母子保健センターの中心的存在としての立場、三次医療を引き受ける医療機関としての立場を十分に期待しているものと考えられる。発表論文は多数に及び、母子保健関係の刊行物も多数見られる。

(3) プロジェクト供与機材の利用状況

何れの機材も十分に活用されており、それによる韓国母子保健センターの医療レベルの向上には計り知れないものがある。実験研究機材も十分に利用されており、韓国内外での研究発表が多くなされ、韓国母子保健センターの地位向上に寄与している。各機材の管理・維持は十分になされてきたが、一方でプロジェクト初期に供与された機材は既に10年近く経過しており、老朽化と消耗部品の交換などに苦勞が見られる。年式の古い機材は部品の入手が不可能な場合も存在する。機材メーカーの韓国における代理店の在り方も必ずしも十分ではなく、また医療の進歩にともなり新しい機材が必要になるところもある。韓国における医学教育や医療レベルはわが国と匹敵するものであり、従ってプロジェクト供与機材の扱いは十分であり、管理・維持に問題はないと考えられる。今回の訪韓で利用状況を視察しても、この点は十分に肯定される所である。

(4) アフターケア協力の必要性

以上述べた如く、この母子保健プロジェクトがもたらした韓国における母子保健レベルの向上には素晴らしいものがある。韓国母子保健センターに対する援助の効果は十分に発揮されていると考えられる。しかし供与機材の老朽化に対する対応や医療の進歩にともなり新機材の必要性は十分に考えられるところであり、今回のアフターケア協力はこれまでの韓国母子保健レベルの向上に相乗的な効果が期待されると考えられる。一部残された問題に対するわが国からの専門家の派遣も必要と考えられる。老朽化した機材などはこれからは韓国側において徐々に補充すべきであると思われるが、今回のアフターケア協力においては、限られた予算ではあるが韓国側の希望する機材のリストを十分に検討して、今後の韓国母子保健センターの発展に有効かつ必要な機材を選定したいと考えている。

4. 調査・協議結果の概要

4-1 韓国母子保健センターでの協議内容

- (1) 先方より提出のあった「日韓技術協力に依る韓国母子保健センター」(現況)に基づいて同センターの現在の活動及び帰国研修生についての説明があった。
- (2) 当方よりアフターケア協力制度についての概要説明を行った。
- (3) ミニッツの内容について先方は基本的に了承。細部について、

1) 機材供与について

- ・すでに供与した機材は十分に耐用年数を経過しており、また修理できるものの多くはセンター独自に対応していることから、先方提出の15品目の希望リストに基づき、新しい機材を供与してほしい。
- ・ミニッツにリストを載せる必要はない。

2) 研修生について

- ・帰国研修生のアフターケアとして2名程度希望したい。

との指摘、要望があった。

(4) 協議の結果、

- 1) 活動内容を①NICU②周産期管理の2項目に絞る。

2) 機材供与については、

- ・15品目の希望リストに基づき、調査団はその必要性を調査の上、帰国後予算の範囲内で検討する。先方はそのための優先順位をつける。
- ・修理部品等については修理可能なものについて調査の上、できるだけカバーするようにする。先方はその結果を基に修理部品についてのリストを作成する。
- ・ミニッツにリストは添付しない。

- 3) 研修生については、今次のプログラムには入っていないことのため国別割当内での個別研修生を考える。

以上の内容で合意した。

4-2 韓国母子保健プロジェクトアフターケア供与機材リストについての協議結果

- (1) 先方要望機材 (優先順: p No.1~No.15のリストの変更版)

1. Ultrasonography (超音波診断装置)

小児科・産婦人科でドプラー、カラードプラー付超音波診断装置を1~2台

2. High frequency ventilater (高頻度呼吸器)

3. Gas chromatography (ガス・クロマトグラフィー)

1台-アフターケア専門家が指導を行うのであれば必須になる。

4. Fetal heart rate monitor (胎児心拍モニター)

修理機材のリストのなかに入っているが、耐用年数も過ぎ、製造中止のため修理不可能である。しかし現状では必要性が非常に高く、また4～5台で対応できるため、新規に供与する。

※1) 調査団としてはNo 2, 4 が最重要と考える旨伝えた。

※2) 以下に関しては予算内で可能なかぎり購入するが事実上は購入不可である旨伝えた。

5. 12 channel electrocardiography

6. Esophageal pH monitor

7. Fiberscope for children

8. Gastrointestinal manometer

9. Oxygen controller

10. Oxygen analyzer

11. Hemodialysis unit for newborn

12. NICU ambulance

※3) Colposcope with teaching scope, Fluoroscope, Inverted microscopeはアフターケアの内容と異なるので除外する。

※4) 調査団は帰国後、至急上記機材に関する価格の見積り及び仕様の検討を行い、主に1～4の項目について予算内で導入可能な機材案を決定し、韓国側に送付する。

※5) 韓国側はそれをもとに希望順位を再検討、また仕様を特定する。

(2) 修理機材 (p Na 1～Na 7のリスト)

1) 調査の結果、新たに加わった機材

① OES Light Sources(CLE-F10)用

A3062 ラパロスコープケーブル (5mm din) : オリンパス

② neonatal monitor (日本電気三栄製) 用

ECG ケーブル : 47396B

供与機材に
加える

2) 修理必要機材リストのなかで修理可能なもの

No 3 1) ダイナマップ連続自動血圧計 845XT/837XT 型用

コネクションチューブ 2個

No 4 Osmometer

No 5 pH meter

韓国側が対応する
(安価であり、購入可能であるため)

No 6 は使用方法に問題 (アドバイスをを行った)

No 2・7 は修理の必要なし

5. アフターケア協力計画

5-1 専門家派遣

アフターケア協力の対象分野として合意した産婦人科、小児科の2分野において短期専門家を派遣することとした。

派遣時期は、供与機材の到着後とする。

5-2 機材供与

産科、小児科の診療、研究機材と、過去に供与した機材のスペアパーツを供与することとした。

5-3 実施上の留意点

機材の供与については、韓国側がプライオリティーを付したリストを提出することで合意した。要請書の提示とあわせ、すみやかな提出を促進する必要がある。

専門家については飯塚団長、青木団員からの推せんを得て、機材供与の時期、韓国側の受入体制と調整を図りつつ決定する。

資 料

1. 協議議事録（ミニッツ）
2. 故障機材調査結果
3. 日韓技術協力による韓国母子保健CENTER
4. 母子保健に関する関係資料（保健社会部）

1. 協議議事録 (ミニッツ)

THE MINUTES OF DISCUSSIONS
BETWEEN THE JAPANESE AFTERCARE COOPERATION SURVEY TEAM AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF THE GOVERNMENT OF
THE REPUBLIC OF KOREA ON
THE AFTERCARE COOPERATION FOR
THE MATERNAL AND CHILD HEALTH PROJECT

The Japanese Aftercare Cooperation Survey Team (hereinafter referred to as "the Team") organized by the Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") and headed by Dr. Rihachi Iizuka, Emeritus Professor, School of Medicine, Keio University, visited the Republic of Korea (hereinafter referred to as "Korea") from March 18 to March 24, 1993 for the purpose of working out the details of the aftercare cooperation programme concerning the Maternal and Child Health Project.

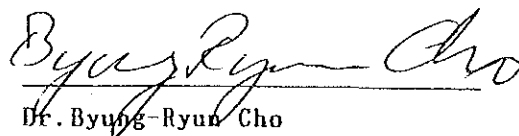
During its stay in Korea, the Team exchanged views and had a series of discussions with Korean authorities concerned in respect of desirable measures to be taken by both Governments for successful implementation of the above-mentioned programme.

As a result of the discussions, both parties agreed to recommend to their respective governments the matters referred to in the documents attached hereto.

March 20, 1993



Dr. Rihachi Iizuka
Leader,
Japanese Aftercare Cooperation
Survey Team for the Maternal and
Child Health Project



Dr. Byung-Ryun Cho
Director General,
Bureau of Public Health,
Ministry of Health and
Social Affairs
REPUBLIC OF KOREA

ATTACHED DOCUMENT

I. COOPERATION BETWEEN BOTH GOVERNMENTS

The Government of Japan and the Government of the Republic of Korea will cooperate with each other in implementing the aftercare technical cooperation programme (hereinafter to as "the Programme") for the Maternal and Child Health Project (hereinafter to as "the Project"). The objective of the Programme is to promote maternal and child health care activities in Korea and will be implemented in accordance with the Programme plan shown in Annex attached herewith.

II. DISPATCH OF JAPANESE EXPERTS

In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense the services of Japanese expert(s) as shown in Annex attached herewith through normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

The Japanese experts mentioned in Annex will be granted in Korea the privileges, exemptions and benefits no less favorable than those accorded to experts of third countries or of other international missions working in Korea.

III. PROVISION OF MACHINERY AND EQUIPMENT

In accordance with the laws and regulations in force in Japan, the Government of Japan will take necessary measures through JICA to provide at its own expense such machinery, equipment and other materials (hereinafter referred to as "the Equipment") as necessary for implementation of the Programme in Annex attached herewith through normal procedures under the technical cooperation scheme of the Government of Japan.

The Equipment will become the property of the Government of the Republic of the Korea upon being delivered to the Korea authorities concerned at the ports and/or the airports of disembarkation, and will be utilized exclusively for implementation of the Programme in consultation with the Japanese experts referred to in Annex.

R

Cho

IV MEASURES TO BE TAKEN BY THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF THE KOREA

The Government of the Republic of Korea should make necessary arrangements for requesting dispatch of Japanese experts and the provision of the Equipment as mentioned in Annex by forwarding the application forms (Form A-1 and Form A-4) at its earliest convenience through the proper channel possible.

In accordance with the laws and regulations in force in Korea, the Government of Korea should take necessary measures to supply or replace, at its own expense, machinery, equipment, instruments, vehicles, tools, spare parts and any other materials necessary for implementation of the Programme other than those provided through JICA.

In accordance with the laws and regulations in force in Korea, the Government of Korea should take necessary measure for tax exemption, customs clearance and internal transportation of the Equipment as mentioned in Annex upon its arrival as soon as it arrives at the ports of disembarkation.

In accordance with the laws and regulations in force in Korea, the Government of Korea should take necessary measures to meet all running expenses necessary for implementation of the Programme.

The Government of Korea should assign necessary number of suitably qualified personnel corresponding to each Japanese expert to be dispatched by the Government of Japan as Specified in Annex for effective and successful transfer of technology under the programme.

The Government of Korea should make any other necessary arrangement to contribute positively to smooth and successful implementation of the Programme.

V CLAIMS AGAINST JAPANESE EXPERTS

The Government of Korea shall undertake to bear claims, if any arises, against the Japanese experts engaged in the programme resulting from, occurring in the course of, or otherwise connected with the discharge of their official functions in Korea except for those arising from willful misconduct or gross negligence by the Japanese experts.

VI TERM OF COOPERATION

The technical cooperation programme mentioned in this attached document should be implemented within the Japanese fiscal year 1993 (from April 1 1993 to March 31 1994).

A N N E X
The Aftercare Cooperation Programme

1. Objective:

Korea Maternal and Child Health Project had been implemented for 6 years and was finished successfully in August 1990. The Aftercare Cooperation Programme is to assist and strengthen the function of The Korea Maternal and Child Health Center at Soon Chun Hyang University in Seoul and thus to contribute to the promotion of maternal and child health on the basis of the achievement after the end of the Project.

2. Periods:

Japanese Fiscal Year 1993 (From April 1993 to March 1994)

3. Activities:

To improve the technical level of
(1) neonatal intensive care
(2) perinatal diagnosis and treatment
in The Korea Maternal and Child Health Center

4. Japanese Experts:

In order to implement the Programme, a couple of short-term experts in the following fields will be dispatched to render such technical guidance and to train Korean counterpart personnel and to transfer necessary technology in the following fields during the term of cooperation.

- 1) Obstetrics
- 2) Pediatrics or Pediatric Surgery

5. Equipment:

Equipment to be provided by the Government of Japan through JICA will be subject to have the priority for the programme activities.

Spare parts and accessories for the machinery and equipment previously provided is to supply in the items to be repaired.

Provision of the above equipment and spares is supported according to the limit of Japanese budgetary scale.

R

Chic

2. 故障機材調査結果

1) 修理および交換を要する機材

- a) ラパロスコープコネクションケーブル (数量1)
オリンパス A3062 (5mm径・CLE-F10用)
破損の為、交換が必要
- b) Automatic Vital monitor コネクションチェホブ (数量2)
Critikon 製 DINAMAP 845 XT 用
耐用を越えた為、交換が必要
- c) Sanei Neonatal Monitor用 ECG コネクションケーブル (数量5)
耐用を越えた為、交換が必要

* a) b) c) の必要部品は今回供与する方向で検討した。

2) 修理不可の故障機器

- a) Fetal monitoring
Sanei 製 8 台
全てが故障しているが、1985年導入で老朽化が進み、また製造中止のため修理が不可である。

*老朽化し、修理不可の機器について、3) の JICA による新規導入機器にならない場合は自己調達とする。

3) 新規必要機器

- a) 超音波断層装置
ドプラー波形表示またはカラードプラー機能を含む超音波断層装置
- b) 人工呼吸器
- c) ガスクロマトグラフィー
- d) 分娩監視装置
- e) その他

上記の優先順位に従い、予算に応じた供給を検討することで合意した。

日・韓 技術協力に 依る
韓国母子保健 CENTER

現 況

1993年 3月

順天郷 大學校
韓国母子保健 CENTER
SEOUL, KOREA

順天郷大學校 韓國母子保健センターのプロジェクトが 日・韓技術協力協定書 (R/D)に 依って 5年間の 協定期間と 1年間の Follow-upを 含めて 6年間に 亘る 相互實施の 結果は 既に 1990年 8月 最終報告書として 提出した 概要内容の 如く 其の 成果は 至大な 事業でありました。

此の 事業を 圓滿に 遂行させられたのは 日本政府、日本國際協力事業團、日本技術協力團及 兩國 有關機關の 物心兩面の 御指導に 再三 甚探なる 感謝を 表す 次第で 御座居ます。

本事業が 成功的に 展開された 結果の 基で 國內でも 唯一無二の 母子保健センターとして 定着し 現在 各分野では 良質の 患者診療及 各種 實驗研究は 勿論、全國的な 母子保健事業 向上の 役割に 献身努力中です。

今般 日本國側の アフターケア 調査團 御來韓の 機會に 際し 當センターの 現況 特に 産婦人科、小兒科教室に 於ける 最近の 活躍狀況と 研究業績 としての 現況 を 作成 提出致しますので 御参考に 供って 下さる事お願い申し上げます。

主要 任員

財團 理事長: 徐 錫 助

1) 大學校及 病院

總 長: 教授 趙 泰 鎭
醫 大 學 長: 教授 李 康 淳
中央醫療院長: 教授 李 尙 柱
Seoul 病院長: 教授 李 尙 柱
天安 病院長: 教授 朴 希 柱
龜尾 病院長: 教授 徐 載 柱
陰城 病院長: 教授 陳 炳 涸

2) 順天鄉大學校 韓國母子保健 Center

所長兼 病院長: 教授 李 尙 柱
研 究 部 長: 教授 姜 得 龍
地域母子保健事業部長: 教授 李 秉 國
行 政 室 長: 次長 李 種 勳

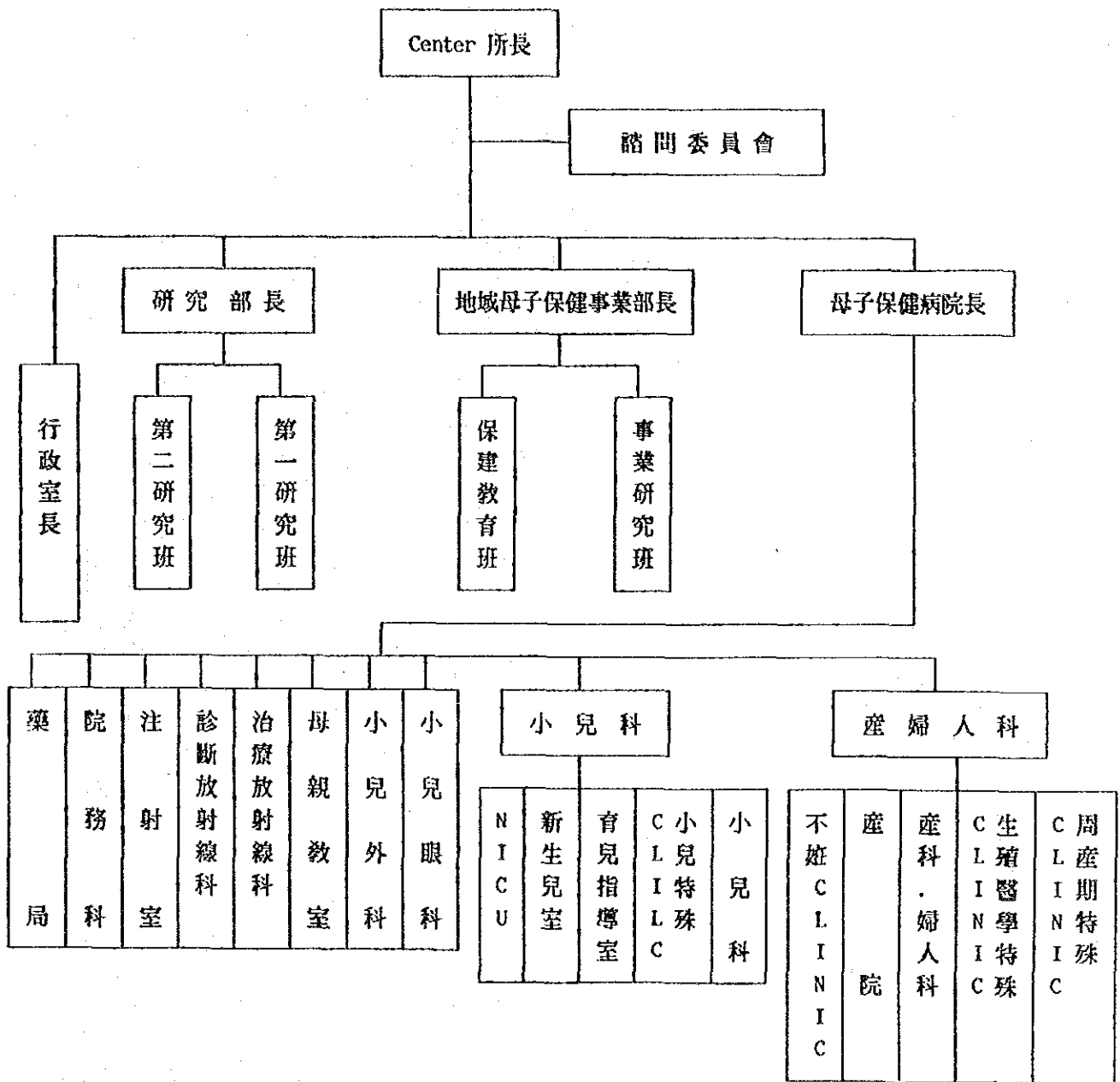
4) 科學技術處

技術協力局 技術協力 第 1 課長
工 業 書 記 官: 李 燾 圭
行 政 事 務 官: 金 鳥 天

3) 保健社會部

保 健 局 長: 趙 炳 倫
家 族 保 健 課 長: 書 記 官 韓 忠 吉
家 族 保 健 係 長: 保 健 技 佐 丁 學 基

順天鄉 大學校 韓國母子保健 CENTER 機構表



順天鄉 大學校 韓國母子保健 CENTER 人員 現況

1. 醫師職

1993年 3月 1日 現在

| 區分 科別 | 專門醫 | 專攻醫 4年次 | 專攻醫 3年次 | 專攻醫 2年次 | 專攻醫 1年次 | Intern | 計 |
|----------|-----|------------|------------|------------|------------|--------|----|
| 產婦人科 | 7 | 7 | 9 | 8 | 10 | 2 | 43 |
| 小兒科 | 10 | 7 | 10 | 9 | 7 | 2 | 45 |
| 計 | 17 | 14 | 19 | 17 | 17 | 4 | 88 |

2. 看護職

| 區分 科別 | 首看護師 | 主任看護師 | R N | A N | 病院補助 | 計 |
|----------|------|-------|-----|-----|------|----|
| 5 病棟 | 1 | 1 | 13 | 3 | 1 | 19 |
| 6 病棟 | 1 | 1 | 12 | 3 | 1 | 18 |
| 分娩室 | 1 | 1 | 8 | 2 | 2 | 14 |
| 新生兒室 | 1 | 1 | 17 | 2 | 2 | 23 |
| 產婦人科外來 | | | 1 | 5 | | 6 |
| 小兒科外來 | | | 1 | 7 | | 8 |
| 育兒相談室 | | | 1 | 2 | | 3 |
| 計 | 4 | 4 | 53 | 24 | 6 | 91 |

3. 行政職

| 職位 課別 | 行政室長 | 係長 | 事務員 | 計 | 備考 |
|----------|------|----|-----|----|------|
| 行政室 | 1 | | 2 | 3 | 母親教室 |
| 院務 | | 1 | 8 | 9 | |
| 醫務記錄 | | | 2 | 2 | |
| 計 | 1 | 1 | 12 | 14 | |

4. 藥務職

| 科別 \ 職位 | 責任藥師 | 藥 師 | 藥 師 補 | 計 |
|---------|------|-----|-------|---|
| 藥 劑 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| 計 | 1 | 1 | 2 | 4 |

5. 醫療技士職

| 科別 \ 職位 | 主 任 | 技 士 | 事 務 職 | 計 |
|---------|-----|-----|-------|---|
| 放 射 線 科 | 1 | 1 | 1 | 3 |
| 計 | 1 | 1 | 1 | 3 |

6. 技能職

| 科別 \ 職位 | 汽 罐 工 | 電 工 | 運 轉 | 守 衛 | 案 內 | 計 |
|---------|-------|-----|-----|-----|-----|----|
| 施 設 職 | 2 | 2 | | | | 4 |
| 總 務 課 | | | | 6 | 1 | 7 |
| 行 政 室 | | | 1 | | | 1 |
| 計 | 2 | 2 | 1 | 6 | 1 | 12 |

* 總人員：~~193~~名

$$\begin{array}{r} 19 \\ \hline 212 \end{array}$$

日本國 専門家 御來韓 指導分野 現況

| 年次 | 氏名 所屬 | 期 間 | 指 導 内 容 |
|--------|---------------------------------|-------------------------|---|
| 1 次 | 飯塚理八 (慶應義塾大學) (産婦人科) | 1984.10.16 ~84.10.20 | 産科, 周産期科, 小兒科専門醫として當Center事業の部門別將來計劃に對し部署責任者と協議する一方, 特別講演及當Center運営に關してSeoul所在大學の關係教授と懇談會を開催した。 |
| | 坂元正一 (日本女子醫大) | 〃 | |
| | 青木菊麿 (愛育會総合母子) (保健Center) | 〃 | |
| 2 次 | 名取道也 (慶應義塾大學) (産婦人科) | 1985.10.2 ~10.13 | 産婦人科醫工學専門家として來韓, 胎兒監視装置, 超音波装置の原理と實地臨床指導を實施した。 |
| | 小林俊文 (慶應義塾大學) (産婦人科) | 1985.10.11 ~10.20 | 不妊症専門家として來韓, 當Center不妊Clinicにて臨床指導, 不妊診断及治療方針作成に協力した。 |
| 3 次 | 木下芳廣 (慶應義塾大學) (醫學部) | 1986.8.11 ~8.25 | 染色體分野技師として來韓し實技及判讀に關し實地指導を行い染色體検査室設置につき協力した。 |
| | 森 彪 (埼玉小兒醫療) (Center) | 1986.8.18 ~8.30 | 小兒心臟學専門家として來韓し, 診断, 治療面で實地指導及特別講演をした。 特に血流力學に對する講義をした。 |
| | 中村幸雄 (慶應義塾大學) (醫學部) | 1986.8.24 ~9.6 | 産婦人科内分泌系専門家として來韓し臨床應用面で指導及協力をし内分泌外來診療の系統化に多大な効果をもたらした。 |
| | 鈴木健 (東京都豫防醫協會) | 1986.10.20 ~11.8 | 先天代謝異常検査の専門家として來韓, Guthrie Test等現在當Centerでなされておる研究検査に對する實地指導をなし多大なる効果をもたらした。 |
| | 高野陽 (國立公衆衛生院) | 1986.11.3 ~11.18 | 母子保健専門家として來韓, 各地域母子保健事業の現地にて實地指導及講演をする一方韓國地域母子保健事業について協力した。 |
| | 森川良行 (慶應義塾大學) (醫學部) | 1986.11.3 ~11.18 | 小兒循環器専門家として來韓, その診断及治療面での指導及特別講演をした。 心エコー図検査に對する指導をした。 |
| | 五味昭彦 (關東逡信病院) | 1987.3.19 ~4.4 | 血管心臟外科専門家として來韓し供與機材の應用及理論, 手術に關する協議, 特別講演をし4次年度研修生に對する指導をした。 |

| 年次 | 氏名 所屬 | 期 間 | 指 導 内 容 |
|--------|--------------------------------|--------------------------|--|
| 4 次 | 河上 征 治 (保健衛生大學) | 1987. 8. 3 ~ 8. 13 | 卵管不妊 微細手術指導 理論及實技 |
| | 飯塚 理 八 (慶應大學醫學部) | 1987. 8. 10 ~ 8. 13 | " |
| | 小澤 百合子 (町役場保健婦) | 1987. 11. 16 ~ 11. 21 | 地域母子保健巡回指導 |
| | 須齊 昌 子 (愛育病院) | 1987. 11. 23 ~ 12. 12 | NICU看護指導 重症新生児看護実技指導, 新生児室運営 及 看護學講義 |
| | 飯倉 洋 治 (国立小児病院) | 1987. 11. 30 ~ 12. 5 | 小児 allergy 患者診断及治療指導 喘息発作時吸入療法の効果と加圧式ネブライ ザ使用法 指導。 |
| | 永倉 俊 和 (国立小児病院) | 1987. 12. 4 ~ 12. 11 | アレルギー疾患の原因究明検査法の指導, 特別講義 |
| | 竹内 成 之 (慶應大學醫學部) | 1988. 3. 13 ~ 3. 27 | 小児心臓外科 理論實技指導 |
| 5 次 | 河上 征 治 (藤田衛生大學) | 1988. 6. 8 ~ 6. 27 | 不妊及卵管微細手術 指導 |
| | 飯塚 理 八 (慶應義塾大學) | 1988. 6. 13 ~ 6. 17 | 不妊症, 体外受精-胚移植及 人工受精指導。 |
| | 堀 内 勁 (聖マリアナ大學) | 1988. 6. 12 ~ 6. 25 | 極小未熟児養育に関する専門的指導及NICUの 運営指導。 頭蓋腔内超音波検査の實技及講義 |
| | 吉村 泰 典 (藤田學園保健衛 生大學醫學部) | 1988. 7. 29 ~ 8. 7 | 生殖醫學, IVF-ET, GIFT, 卵子の凍結保存の指導 |
| | 大 島 崇 (日本国立小児眼 科病院小児眼科) | 1988. 11. 3 ~ 11. 9 | 未熟児網膜症早期発見の爲の検査及治療方法研 究 |
| 6 次 | 飯塚 理 八 (慶應義塾大學) | 1988. 11. 21 ~ 11. 25 | 評價調査團, 順天郷大學韓国母子保健センター活動 状況を評価調査 |
| | 青木 菊 磨 (愛育會母子総合 保健センター) | 1988. 11. 21 ~ 11. 25 | " |
| | 松本 千 草 (厚生省兒童 技術調整官) | 1988. 11. 21 ~ 11. 25 | " |
| | 淺野 寿 夫 (國際協力事業團 醫療協力部代理) | 1988. 11. 21 ~ 11. 25 | " |
| | 石井 孝 子 (慶應大學看護婦長) | 1989. 2. 7 ~ 2. 16 | NICU指導及 看護學指導 |

| 年次 | 氏名 所 屬 | 期 間 | 指 導 内 容 |
|---------------------------------------|-----------------------------|----------------------|---|
| | 飯塚理八 (慶應大學醫學部) | 1989.10.17 ~10.21 | 周産期醫學指導 |
| | 飯田悦郎 (荻窪病院副院長) | 1989.10.17 ~10.21 | 体外受精-胚移植の指導 |
| 7 次 | 河上征治 (藤田學園保健衛生大學醫學部) | 1990.1.25 ~1.31 | 卵管不妊症治療及手術指導 |
| | 吉村泰典 (藤田學園保健衛生大學醫學部) | 1990.1.25 ~1.31 | 体外受精(生殖醫學) 卵子の凍結保存指導 |
| | 酒井 科 (北里大學) | 1990.6.4 ~6.10 | 小兒 Nephrology 指導 新生兒及 小兒の 慢性腎不全 講義 |
| | 齊藤博久 (國立小兒病院) | 1990.6.11 ~6.20 | 小兒アレルギー學 アレルギー患者の 原因究明 及 確診の実技, 講義 |
| | 鈴木 健 (東京都豫防醫學協會) | 1990.6.18 ~6.27 | 先天性代謝異常疾患 Screening Test指導, Neuroblastoma Screening Test法 指導 |
| | 佐久間達朗 (慶應義塾大學) | 1990.6.18 ~6.23 | 産婦人科病理 Colposcopeの最新知見 |
| | 川本元子 (慶應義塾大學) | 1990.6.18 ~6.22 | 産婦人科病理 婦人科癌細胞培養の指導 |
| | 野澤志良 (慶應義塾大學) | 1990.6.19 ~6.21 | 産婦人科病理 子宮體部癌の最新診断 |
| | 青木菊麿 (愛育會母子綜合 保健センター) | 1990.7.2 ~7.7 | 地域母子保健事業に對する 地方視察指導及要員教育 |
| | 平山宗宏 (母子愛育會日本 愛育研究所長) | 1990.7.4 ~7.7 | 地域母子保健事業に對する 地方視察指導及要員教育 |
| | 野口光一 (國際協力事業団) | 1990.8.27 ~8.31 | 協力計劃 |
| | 8 次 | 飯塚理八 (名譽教授 團長) | 1993.3.18 -3.21 |
| 青木菊麿 (愛育綜合母子保健 センター 保健指導 部長) | | 1993.3.19 -3.24 | 調査團員 (母子保健) |
| 末岡浩 (慶應大學診療部長) | | 1993.3.18 -3.24 | 調査團員 (産婦人科) |
| 伊田久勝 (JICA 醫療協力部) | | 1993.3.18 -3.24 | 調査團員 (協力計劃) |

日本國 専門家 來韓 指導に 依る 効果:

1. 供與された 器材の 臨床實際應用面 大變有益であつた.
2. 約 2週間あまりの 滞在で 各分野別に 個人的な 友誼が 深まり 歸國後も 相互 醫學情 報の 交換があるだけでなく 相互 日本と 韓國に 對する 國際的 認識が 特に 若い層で 變化されおたがいの 國を 深く 理解する 機會になつたと 云う 事は 日韓技術協力 精神 以上の 効果があつたと思はれる 點である.
3. 臨床及 地域母子保健面に 於て 直接 日本の 現情を 聞く、指導される 事に 依り その 理解が 早く、これらを 直接 韓國の 事情に 適應する 様に 應用する 時間が 短縮でき ると 云う 點でも 非常に 効果であつた.
4. 日本 現地 研修から 歸國した 人達にとつては 日本 専門家との 再會に 依り 習得をす る 機會が 得られると 云う 點でも 有益であつた.
5. 特に 日本學會から 招待された 研修員等が 韓國代表として 該當分野の 研究業績を 發表された 機會が 得られた 事も 本 技術協力 事業に 基づく 結果で 至大な 効果で あつた.
 - a. 産婦人科 車 相軒: 日本 臨床 遺傳學會 (1991年 5月)
 - a) Cytogenetic prenatal diagnosis in Korea
 - b) Chorionic villi sampling in 300 continuing pregnancies.
 - b. 小兒科 李 東煥: 第 34回 日本 先天性 代謝異常 學會 (1992年 11月)
“韓國に おける 先天性 代謝異常症の 現況”
※ First Asian Pacific Regional Meeting of International Society for Neo-natal Screening (1992年 6月 21日~6月 25日, Sapporo, 日本) 學會で “Neo-natal Screening in Korea”を 發表豫定.
6. 韓國學會に 於ても 日本國の 専門家を 特別に、日本國の 代表者として 特別講演に 招待 する 選擇の 道が 開かれるようになった 事も 眞に 有益であつた.
 - a. 産婦人科 野澤 志朗: 大韓 婦人腫瘍, Colposcopy 學會 (1991年 11月)
“The present and the future of tumor markers”
 - b. 小兒科 飯倉 洋治: 12th APCDC (1992年 10月 4日~ 10月 7日)
“Sports and sports therapy in bronchial asthma”

研修員派遣現況

| 年次 | 氏名 | 期 間 | 分 野 | 機 關 | 指導教授 |
|--------|---------|------------------------|--------------|--------------------------|--------------|
| 事前個人研修 | 俞 勳 | 1982.10 ~1982.12 | 母子保健全般 | 慶應義塾大學醫學部 | 飯塚理八 |
| | 韓善浩 | 1982.10 ~1983.10 | 小兒精神科 | 〃 | 保崎秀夫 |
| | 李東煥 | 1982.10 ~1983.3 | 新生兒集中治療 | 日本大學醫學部 | 馬場一夫 |
| | 朴鍾燮 | 1983.2 ~1983.4 | 小兒成形外科 | 慶應義塾大學醫學部 | 藤野豊美 |
| | 俞 熙 | 1983.2 ~1983.8 | 小兒外科 | 〃 | 阿部令産 |
| 1次年度 | ④ 金彰輝 | 1984.11.27 ~85.4.21 | 小兒血管心臟學 | 埼玉小兒醫療Center | 森 彪 |
| | 李東華 | 1984.11.27 ~85.2.23 | 羊水培養, 臨床病理 | 慶應義塾大學醫學部 | 飯塚理八 |
| | 李英周* | 1984.11.27 ~86.2.23 | 生殖醫學 | 〃 | 飯塚理八 |
| 2次年度 | ① ② 李權海 | 1985.11.25 ~86.5.17 | 周產期學, 醫工學 | 〃 | 飯塚理八 |
| | ③ 朴在玉 | 1985.12.4 ~86.5.31 | 小兒超音波, 內視鏡分野 | 〃 | 青木菊麿 |
| | 辛端麗* | 1985.11.6 ~86.2.3 | 新生兒集中治療看護學 | 〃 | 石井孝子 |
| 3次年度 | ⑤ 李任順 | 1986.7.8 ~86.12.23 | 不妊及卵管微細手術 | 〃 | 飯塚理八 |
| | 片復陽 | 1986.7.8 ~86.12.20 | 小兒 allergy | 國立小兒病院 | 飯倉洋治 永倉俊和 |
| | 金橋任 | 1986.7.8 ~86.12.23 | 小兒 麻 醉 | 慶應義塾大學醫學部 | 中野正雄 |
| 4次年度 | 車相幹* | 1987.8.2 ~88.2.2 | 母子保健, 細胞培養 | 〃 | 飯塚理八 |
| | 盧重基* | 1987.8.2 ~88.2.2 | 小兒血管心臟外科 | 〃 | 竹内成之 |
| | 朴聖姬 | 1987.8.2 ~88.2.2 | 小兒眼科 | 國立小兒病院 | 大島崇 |
| | 李鍾勳 | 1988.3.13 ~88.3.29 | 母子保健行政學 | 慶應義塾大學醫學部, 愛育病院, 厚生省外 | 森山豊 飯塚理八 |

事務局長印

| 年次 | 氏名 | 期 間 | 分 野 | 機 關 | 指導教授 |
|------------------|---------|------------------------|---------------|---------------|------|
| 5 次 年 度 | ⑥ 李 順 坤 | 1988.11.23 ~89.5.23 | 婦 人 科 腫 瘍 學 | 慶 應 義 塾 大 學 | 飯塚理八 |
| | 梁 淳 在 | 1988.11.21 ~89.5.20 | 先天性畸形の再建術 | 東京女子醫科大學 | 平山峻外 |
| | 金 柄 泰 | 1988.11.23 ~89.5.21 | 血 液 透 析 | 北 里 大 學 | 酒井 紉 |
| | 李 鍾 龍 | 1989.7.25 ~90.1.25 | 不 妊 症 體 外 受 精 | 慶 應 義 塾 大 學 | 飯塚理八 |
| | 韓 昌 圭 | 1989.7.25 ~90.1.31 | 小 兒 外 科 學 | 慶 應 義 塾 大 學 | 横 森 |
| | 李 仁 子 | 1989.7.25 ~90.11.29 | 周 産 期 看 護 學 | 慶 應 義 塾 大 學 | 石井孝子 |
| | 鄭 然 泰 | 1990.9以后 | 呼 吸 器 疾 患 | 東 北 大 學 医 學 部 | 滝 島 |

* 退任

※ 順天郷大學校 日本國 研修員 研究會 結成

JICA計劃に 依り日本國で 研修を 修了した 研修員が 歸國後も 日本國の 専門家とは 緊密な 連絡及び 親睦を 深させると 同時に、 醫學情報交換と 継続的な 技術協力を 目的とした 研究會を 結成し 活動中である。

上記 韓國 研修生派遣に 依る 効果。

1. 日本國での 研修を 修了した 韓國の 研修生は 歸國後も 各自の 研修分野 開發に 努力中でありながら 日本で 習得した 知識を 活用して 當 Centerの 發展に 寄與して 居る。
2. 日本國での 研修分野が 各自の subspeciality 分野になった 契機になり 各自の 分野に 於いて 國內での 立場が 確固になった。 従って 日本國での 研修が 3次 level 醫療 機關の 役割を 遂行するに 必要な 技術を 習得する 好機會だったと 思う。
3. 各分野の 研修に 依り 順天郷大學校 韓國母子保健センターが 全國地域母子保健センターの leaderの 役割を 擔當出来る 様に 機能が 強化した 原動力になったと 言っても 過言ではないと 思う。

全國地域母子保健綜合センタの分布 及 役割

1) 順天郷大學 韓國母子保健 Center:

- ① 京畿道内 11個所の一線M.C.H.Centerに對する地域母子保健綜合 Centerの役割.
- ② 全國地域母子保健綜合Center 協議會の會長の役割.
- ③ 全國母子保健研究所としての役割.

2) 順天郷天安病院地域母子保健綜合Center :

忠清南道一部 5 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

3) 順天郷龜尾病院地域母子保健綜合Center:

慶尙北道一部 6 個所の一線M. C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

4) 大田乙支病院地域母子保健綜合Center :

忠清南道一部 3 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

5) 全州基督病院地域母子保健綜合Center :

全羅北道 9 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

6) 光州基督病院地域母子保健綜合Center :

全羅南道一部10個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

7) 春川翰林大學病院地域母子保健綜合Center :

江原道一部 8 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

8) 延世大學原州醫大病院地域母子保健綜合Center :

江原道一部 6 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

9) 清州Seoul病院地域母子保健綜合Center :

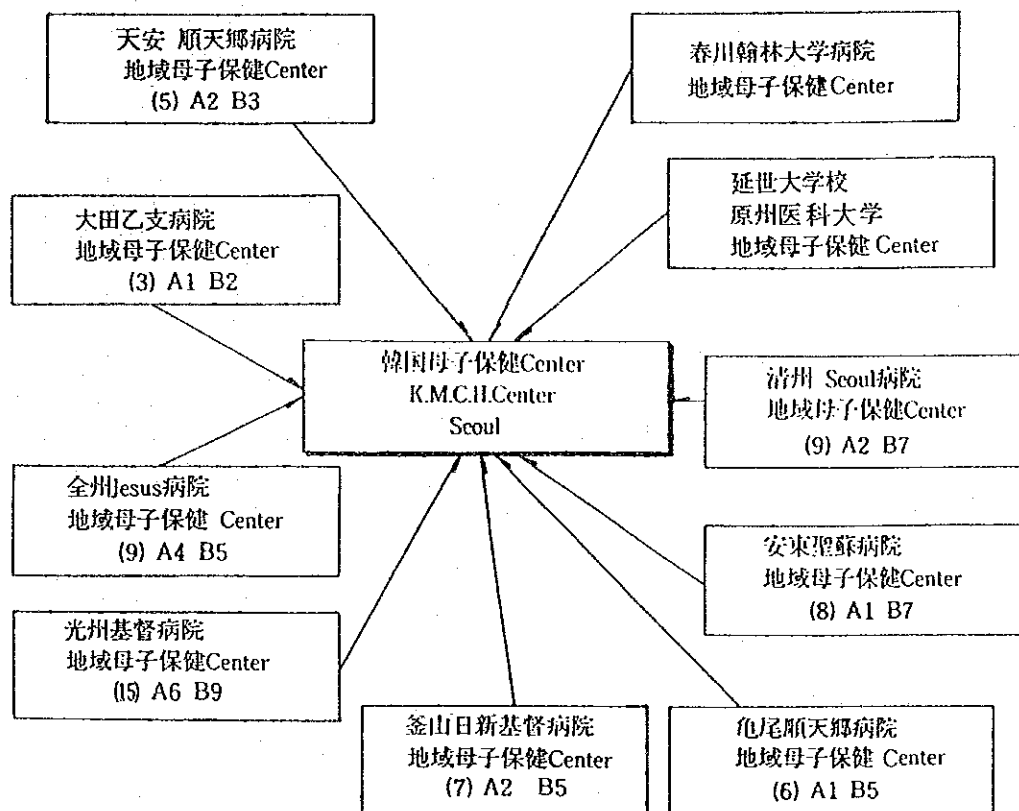
忠清北道一部 9 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割.

10) 安東聖蘇病院地域母子保健綜合Center :

慶尙北道一部 8 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割。

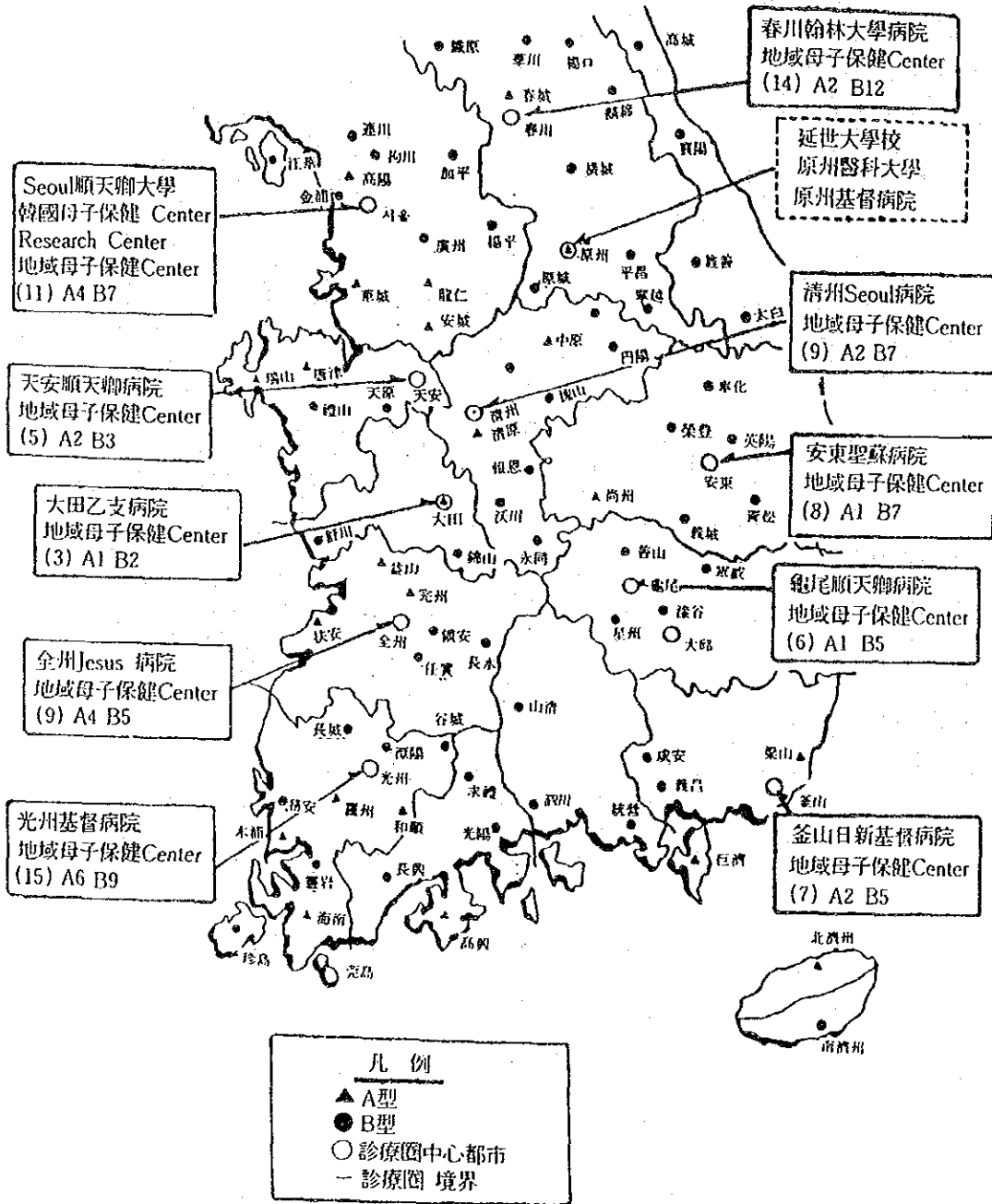
11) 釜山日新基督病院地域母子保健綜合Center :

慶尙南道一部 7 個所の一線M.C.H.Centerに對する綜合Centerとしての役割。



※ ()内の数字は 1個所の地域母子保健綜合センターで管轄する郡母子保健所の数。

診察圈別母子保健Center 及 地域母子保健綜合Center分布圖
 (The Distribution Chart of Catchment Areas)



日本 専門家 韓国及 国際學會 招請

1. 産婦人科 野澤 志朗: 大韓 婦人腫瘍, Colposcopy 學會 (1991年 10月)
發表 題目: The present and the future of tumor markers
2. 小兒科 飯倉 洋治: 12th APCDC (1992年 10月 4日~10月 7日)
發表 題目: Sports and sports therapy in bronchial asthma

韓国 研修生 日本學會 招請

1. 産婦人科 車 相軒: 日本 臨床遺傳 學會 (1991年 5月)
發表 題目: a. Cytogenetic prenatal diagnosis in Korea
b. Chorionic villi sampling in 300 continuing pregnancies
2. 小兒科 李 東煥: 日本 先天性 代謝異常 學會 (1992年 11月)
發表 題目: 韓国における 先天性 代謝異常症の 現況
※ First Asian Pacific Regional Meeting of International Society for Neonatal Screening (1993年 6月 21日~6月 25日, Sapporo, 日本) 學會で "Neonatal Screening in Korea" を 發表豫定.

刊行物

1. 아기 돌보기 (Baby care)
2. 母子 保健
3. 新生兒 診療 便覽
4. 母子 健康 手帖
5. 母子保健の 實態と 改善方向
6. 母親と 共に 治す 我が子の 喘息
7. 先天性 障碍の 原因と 豫防
8. 小兒の 肥滿
9. 小兒 成人病

政府母子保健 事業の 業務委託

1. 京畿道内の 精神薄弱児 発生防止の爲 “新生児 先天性 代謝異常検査協約 締結”

1990年 2月, 母子保健法 第 10條 (妊産婦及 環乳児 保健管理等)及び 同法 施行令 第 12條 (業務委託)の 規定に 依り 京畿道と 順天郷大學病院は 精神薄弱児 発生防止の爲 “新生児 先天性 代謝異常 検査” 事業を 効率的に 遂行する 爲に 協約を 締結した。京畿道の 豫算で Screening 検査を 始めたと言ふ事が 意味が 有る, と言ふのは 政府も Screening 検査の 重要性を 認識し 始めたと言ふ點, 地域母子保健事業の 地域化の 道單位 事業の 開始と言ふ 點と 京畿道を 始めにして 全國に 擴大實施する 契機になる と言ふ 點で 甚だ 意味が 有ると 信じる。

新生児 先天性 代謝異常 Screening 検査事業が 擴大されるのは 政府 (保健社會部)の 事業として 行はれるので 全國 母子保健所で 分娩する 新生児の 代謝異常 Screening 検査も 實施するようになり, 又 全國 地域母子保健 綜合センターの 組織を利用して Screening 検査も 1991年から 實施して 居る。現在 統計表面では 實施された 例数が 少いとは 言えど 今後 政府方針に 基いて 全國的に 擴大するよう 政府が 立案して 居る。

代謝異常検査の 重要性に 鑑し 其の 検査 實施可能 施設所も 増加し 現在 下記の

- 1) 順天郷大學校 韓國母子保健 センター
- 2) 大韓家族計劃協會
- 3) 健康管理協會

以上 3個所で 検査は 可能であります 母子保健 センターを 除く 2個所で 行われた 際の 疑症 結果及至 有所見者は 移送體系が 樹立しており 症病確認の 爲には 當 母子保健 センターに 必ず 移送して 始めて 確診検査を する事になって おります。

2. 韓國保健社會部 研究課題を 順天郷大學校 韓國母子保健 センターに 依頼

保健社會部 保健局 家庭保健課から 韓國母子保健 センターに 1991年度 保健社會部 研究課題を 依頼して 來た。

それで 母子保健 向上 政策樹立に 有用な 課題を 提出した。研究は 順天郷大學病院 小兒科, 産婦人科, 豫防醫學科が 中心になって 全國 11個所の 地域母子保健綜合 センターと 協同に 共同研究をするつもりで 課題が 採擇できて 來年度の 豫算が 確保される 様に 推進中 であります。

3. 其の後も 政府 會計年度の 豫算關係上 採擇が 得られ なかったが, 一部の 課題に 對しては 當 母子保健 センターの 各 教室で 研究を 實施して 居る。

順天郷 大學校 韓國母子保健 Centerの 各種 統計及 活動現況

1. 妊産婦登録及 分娩現況 (1985年 7月 1日～1992年 12月 31日, 7年 6個月)

- 1) 妊産婦 總 登録数: 18,228件
- 2) 分娩数 : 14,211件

2. 育児指導會 (1985年 7月 1日～1992年 12月 31日, 7年 6個月)

育児指導及 豫防接種 總数と 内容 (添附 Table 参照).

3. 母親 教室 (1985年 7月 1日～1992年 12月 31日, 7年 6個月)

毎週 水曜日 に 開催し 總 受講人員及 教育内容は 下記の 通りである.

- 1) 總 受講 人員: 5,097名
- 2) 教育 内容:

- | | |
|-----------|-------------|
| ① 妊娠の生理 | ⑫ 小児の應急處置 |
| ② 妊娠中異常 | ⑬ 食品アレルギー |
| ③ 妊産婦營養 | ⑭ 妊産婦の保健衛生 |
| ④ 出産準備及分娩 | ⑮ 腎臓疾患兒童の管理 |
| ⑤ 産褥期管理 | ⑯ 心臓疾患兒童の管理 |
| ⑥ 小児營養 | ⑰ 小児の夜尿症 |
| ⑦ 營養食實習 | ⑱ 喘息兒童の管理 |
| ⑧ 豫防接種 | ⑲ PKUの食餌療法 |
| ⑨ 病院案内及見學 | ⑳ 肥満兒の管理 |
| ⑩ 新生兒養育指針 | ㉑ 離乳食の實地指導 |
| ⑪ 小児の成長發育 | |

5. Seoul 市内 小兒科 開院醫の 醫學研修 教育

Seoul 市内で 開院して 居る 小兒診療擔當醫師に 對する 1986年から いままで 研修教育を 開催し 最新 醫學知見の 普及は 勿論, 一次 Levelの 醫療機關と 韓國母子保健 Centerとの 關係を 深め 患者移送 傳達體系 樹立を 企圖して 居る.

Activities of Well Baby Clinic

| Year | 1985 [*] | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | 1993 ^{**} |
|-----------------------|-------------------|-------|-------|-------|--------|--------|--------|--------|--------------------|
| No. of Visit | | | | | | | | | |
| New visit | 507 | 1,223 | 1,061 | 1,174 | 1,218 | 1,233 | 1,248 | 1,655 | 258 |
| Revisit | 1,551 | 4,997 | 5,540 | 6,053 | 6,528 | 6,922 | 7,379 | 7,853 | 1,185 |
| Subtotal | 2,058 | 6,210 | 6,601 | 7,227 | 7,746 | 8,155 | 8,627 | 9,508 | 1,443 |
| Counseling | | | | | | | | | |
| General | 2,058 | 6,210 | 6,601 | 7,193 | 7,746 | 8,155 | 7,933 | 9,308 | 1,400 |
| Nutrition | 1,417 | 2,980 | 2,073 | 2,414 | 2,834 | 1,932 | 543 | 2,803 | 398 |
| Screening test | | | | | | | | | |
| Mantoux 5TU | 230 | 423 | 231 | 565 | 709 | 857 | 837 | 1,014 | 191 |
| Mantoux 1TU | 70 | 371 | 397 | 257 | 103 | 113 | 168 | 147 | 10 |
| T. S. H. | 0 | 24 | 118 | 121 | 78 | 118 | 203 | 306 | 7 |
| Guthrie | 0 | 0 | 119 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Hb | 197 | 386 | 176 | 148 | 59 | 185 | 79 | 77 | 23 |
| Urine | 0 | 0 | 162 | 139 | 11 | 13 | 102 | 10 | 4 |
| Stool | 0 | 0 | 15 | 26 | 14 | 18 | 8 | 2 | 1 |
| HBsAb | | | | | 220 | 301 | 108 | 165 | 43 |
| Vaccination | | | | | | | | | |
| B. C. G. | 395 | 1,219 | 1,179 | 1,252 | 1,367 | 1,356 | 1,471 | 1,739 | 323 |
| D. P. T. | 927 | 2,715 | 2,428 | 2,444 | 2,445 | 2,526 | 2,639 | 3,712 | 453 |
| D. T. | 79 | 82 | 71 | 52 | 35 | 42 | 30 | 29 | 7 |
| Pertussis | 82 | 27 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| Sabin | 1,006 | 2,780 | 2,495 | 2,506 | 2,469 | 2,549 | 2,497 | 3,252 | 457 |
| M. M. R. | 85 | 270 | 414 | 404 | 383 | 443 | 462 | 533 | 95 |
| Measles | 46 | 264 | 310 | 409 | 442 | 507 | 487 | 600 | 115 |
| Hepatitis B | 371 | 1,419 | 2,322 | 2,267 | 2,284 | 2,290 | 2,295 | 2,191 | 361 |
| Encephalitis | 147 | 457 | 612 | 518 | 768 | 642 | 766 | 649 | 0 |
| HBIG | 0 | 0 | 1 | 3 | 0 | 1 | 2 | 0 | 0 |
| influenza | 0 | 0 | 3 | 10 | 6 | 88 | 193 | 312 | 11 |
| Biken | | | | 49 | 17 | 101 | 137 | 147 | 35 |
| Rubella | | | | 10 | 5 | 5 | 2 | 0 | 0 |
| Pneumovaccine | | | | | | | | 4 | 10 |
| Subtotal | 3,138 | 9,233 | 9,853 | 9,924 | 10,221 | 10,550 | 11,387 | 12,584 | 1,867 |

* from Jul. to Dec.

** from Jan. to Feb.

各種 母子保健 教育

内 容

- 1) 定期的 地域保健所 母子保健要員 教育
 - 2) 母子保健に 關する 大衆教育 實施
-
1. 保健社會部 主管 一線母子保健 Center 巡迴教育
※ 最終報告 參照
 2. 保健社會部 主管 一線母子保健 要員 集合教育
※ 1990年 6月 7日までの 内容は 最終報告 參照
 - 1) 日 時: 1992年 5月 8日
場 所: 家族計劃協會 會議室
人 員: 母子保健 Center 助産員 40名
講 師: 教授 李 東 煥
 - 2) 日 時: 1992年 5月 29日
場 所: 家族計劃協會 會議室
人 員: 軍醫官 80名
講 師: 教授 李 東 煥
 - 3) 日 時: 1992年 7月 15日
場 所: 國立 保健院
人 員: 母子保健 Center 助産員 45名
講 師: 教授 李 東 煥
 - 4) 日 時: 1992年 10月 20日
場 所: 國立 保健院
人 員: 母子保健 Center 助産員 55名
講 師: 教授 李 東 煥
 3. 保健社會部 家族計劃協會 主管 妊産婦教育
※ 最終報告 參照
 4. SAESDAE 育英會主管 豫備新婦教育
※ 最終報告 參照
 5. 大韓 主婦 Club 聯合會 新婦學堂 豫備新婦教育
※ 1989年 4月 7日までの 内容は 最終報告 參照
 - 1) 日 時: 1991. 8. 16
 - 2) 日 時: 1992. 8. 21

6. Seoul 特別市 勤勞者 綜合福祉館 青少年勤勞者 教育
※ 1989年 11月 9日までの内容は 最終報告 参照
 - 1) 日時: 1990. 11. 14
 - 2) 日時: 1991. 11. 15
 - 3) 日時: 1992. 5. 29
 - 4) 日時: 1992. 10. 30

7. 保健社會部, 家族計劃協會 主管 母子保健要員 教育
※ 最終報告 参照

8. 大韓 家族計劃 協會 主管 大韓 家族計劃 弘報教育事業 要員教育
日時: 1991年 9月 28日
場所: 家族計劃協會 附設 龍山病院 講堂
人員: 60名
講師: 教授 李 東煥

9. 大韓 家族計劃 協會 妊産婦 母子保健 教育
日時: 1990年 11月 16日~1992年 11月 2日 (15回)
場所: 家族計劃協會 附設 龍山病院 講堂
人員: 毎回 50~60名
講師: 教授 李 東煥, 副教授 朴 在玉

10. MBC 放送局 妊娠, 育兒教室
日時: 1991年 10月 18日~1992年 5月 29日 (8回)
場所: 木浦, 浦港, 光州, 濟州, 大田, 大邱, 蔚山, Seoul
人員: 毎回 80~250名
講師: 教授 李 東煥

推進中の 地域母子保健 事業

1. 地域母子保健総合センターの機能強化事業

1) 地域母子保健総合センターに新生児集中治療室(NICU)を設置して、高危険妊娠婦及び新生児(High risk infant)の移送、分娩及び養育を擔當する事が可能なる様に地方地域母子保健総合センターの機能を向上させようと計劃する。

2) 順天郷大學韓國母子保健センターにAllergy検査室を設置する事に依り地域母子保健センターの機能を強化させようと計劃する。

2. 小兒慢性特定疾患研究及び治療の地域化事業

下記の如く特定慢性疾患を選定する。

先天性代謝異常疾患、糖尿病、血友病等 血液疾患、惡性新生物、慢性 腎疾患、喘息、慢性 心疾患、膠原病、内分泌疾患

上記疾患中一次的に先天性代謝異常疾患と小兒喘息を選定してその疾病の早期發見、早期治療計劃を樹立する。

3. 地域母子保健機能の電算化管理事業

1) 現在全國に 11個所の地域母子保健総合センターが設置されていますがその 11個所の地域母子保健総合センターと120個所の郡母子保健所にコンピューターを設置して全國的な母子保健電算化管理事業をする計劃である。

その地域内の郡母子保健所と協力して(政府と協議)その地域に住む住民の母子保健向上計劃樹立に必要な基本的母子保健データをコンピューターを利用、収集して精確な母子保健統計を算出する。

この統計を基礎にして地域母子保健事業及び指導をする計劃ですし、政府の母子保健向上に關する政策樹立に役立つ基礎的資料を提供する計劃である。

2) 母子保健統計

出生率

出生體重、妊娠期間、地域差、出生順位、出生月、母年齢、出生場所、立會者、多胎兒。

乳兒死亡率・新生兒死亡率

地域差、生存期間、死亡場所、父母職業、死亡原因。

死産率

性, 地域差, 妊娠期間, 母年齢, 原因(兒側, 母側)

周産期死亡率

地域差, 原因(兒側, 母側病態)

妊産婦死亡率

人工妊娠中絶に関する統計

人工妊娠中絶実施率, 地域差, 妊娠期間, 事由, 母年齢

妊娠婦登録率

施設分娩率

1990年 最終報告後の 活動現況

1. JICA 最終報告以後 各分野 習得知識及技術 活用現況

JICA 計画に 依り 日本國で 研修した 研修生は 日本で 修得した 知識を 十分に 活用して 各自の 研修分野の 特殊 Clinicを 開設して 自身の 研修分野の 開發及 發展に 繼續努力中である。

2. JICA 供與 機資材 活用効果

各 分野別で 供與 機資材を 活用して 良質の 患者診療及 各種 實驗及 研究に 使用している。特に 産婦人科 自體の 研究實驗室を Set-upして 各自の 研究をするようになって 臨床面に 基礎醫學の Supportが 可能になった。

3. 國內外的 地位向上

國內外の 産婦人科 學會及 小兒科 學會に 口演及 論文を 發表している。
(本文 内容 参照)

4. 各種 母子保健 事業への 參與

5. 日本 専門家 紐帶及 將來希望

日本 現地研修から 歸國した 人達にとっては 日本専門家と 繼續的な 紐帶を たもっていますが 習得した 知識を 十分に 復習して 最近 醫學知識及 技術を 習得する爲に 紐帶強化及 再研修の 機會が あればと 希望しています。

1. 所 属: 順天郷大學校 韓國母子保健 センター 産婦人科
職 位: 副教授
氏 名: 李 權 海
2. 研修 期間: 1985年 11月 17日 ~ 1986年 5月 16日
3. 研修 場所及 指導教授: 日本慶應義塾大學 醫學部 産婦人科, 飯塚理八 教授
4. 研修 分野:
 - 1) 慶應義塾大學病院 産婦人科 ME (Medical Engineering) 教室で 産婦人科 超音波の 研修.
 - 2) 胎兒の 健康評價に 利用される 胎兒 心拍監視装置の 研修
5. 歸國後業績:
 - 1) 産科, 婦人科患者の超音波實施
 - a. 妊娠の 診断
 - b. 異常 妊娠
 - a) 流産
 - b) 子宮外 妊娠
 - c) 胎狀畸胎
 - d) 子宮内 胎兒死亡
 - c. 多胎妊娠の 確診
 - d. 絨毛膜穿刺, 羊水穿刺
 - e. 胎位の 確認
 - f. 胎盤
 - a) 位置 (前置胎盤)
 - b) 剝離 (胎盤早期剝離)
 - c) 成熟度
 - g. 胎兒年齢の 確認
 - a) Biparietal diameter (BPD)
 - b) Femur length (FL)
 - c) Abdominal circumference (AC)
 - h. 羊水の 容積
 - i. 胎兒發育評價
 - j. 胎兒健康状態
Biophysical profile
 - k. 先天性畸型
 - l. 骨盤内 腫瘍の 診断
子宮筋腫, 卵巣嚢腫
 - m. 骨盤内 疾患
骨盤膿瘍
 - n. 非收縮性検査 (NST)
 - a) 非適應症は なく, 全産母に 實施可能
 - b) 特別 適應症
糖尿病産母
妊娠性高血壓
胎兒發育遅延
過熟兒
子宮内胎兒死亡の過去歴
羊水内胎便の存在
 - o. CST
 - a) NSTに 非反應性時, CSTの 實施
 - b) 非 適應症
早期陣痛
早期破膜
前置胎盤
多胎妊娠

6. 國際 學術大會 參席

- 1) The '90 Workshop on Color Flow Mapping in OB/GY and Echocardiography Workshop. Singapore (1990)
- 2) First Congress of Perinatal Medicine. Japan (1991)
- 3) International Congress of Gynecologic Endoscopy in Seoul. Korea (1992)

7. 國內 學術大會 發表

- 1) Management of multiple pregnancy (symposium) 88年 62次 大韓產婦人科學術大會
- 2) Ultrasound detect of fetal anomaly (研修講座) 91年 67次 春季學術大會
- 3) Tocolytic management and additional therapeutic consideration (Symposium) 1992年 67次 大韓產婦人科學術大會

8. 必要な 醫療 機資材:

- 1) Ultrasonogram
- 2) Color Doppler
- 3) Fetal heart rate monitor

9. 醫療 統計 (Table 1)

| | | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | 總計 |
|---------|------------|------|------|------|------|------|------|-------|
| Doppler | | | | | | | 239 | 239 |
| N S T | | 124 | 306 | 369 | 460 | 672 | 816 | 2747 |
| 周產期死亡率 | | 19.3 | 21.0 | 22.0 | 25.7 | 38.0 | 16.5 | |
| 母性死亡率 | | 0 | 0 | 0 | 38.2 | 32.6 | 34.3 | |
| 超音波 | 產科 | 1642 | 1730 | 1771 | 1619 | 2628 | 3022 | 12412 |
| | 婦人科 | 834 | 817 | 794 | 770 | 762 | 880 | 4857 |
| | 超音波總數 | 2476 | 2547 | 2565 | 2389 | 3390 | 3902 | 17269 |
| 分娩統計 | N S V D | 1133 | 1157 | 1869 | 1910 | 2259 | 1959 | 10287 |
| | C-section | 420 | 457 | 649 | 703 | 810 | 955 | 3994 |
| | 合計 | 1553 | 1614 | 2518 | 2613 | 3069 | 2914 | 14281 |
| 先天性畸形 | Head & CNS | 1 | 1 | 5 | 7 | 6 | 13 | 33 |
| | Trunk | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 1 | 3 |
| | G-I & G-U | 0 | 0 | 2 | 3 | 6 | 12 | 23 |
| | Extremity | 1 | 2 | 0 | 1 | 0 | 4 | 8 |
| | 總計 | 2 | 3 | 7 | 11 | 14 | 30 | 67 |

10. 發表論文

- 1) Y.H.Kim, E.K.Ko, K.H.Lee, H.Yoo; One Case of Giant Baby. Korean Journal of OB & GY, Vol.27, No.3:411, 1984.
- 2) K.H.Lee, Y.J.Lee, T.H.Cho; Pregnancy and Hepsatitis. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.7, No.1:71, 1984.
- 3) K.H.Lee; Drug Therapy During Pregnancy. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.7, No.4:349, 1984.
- 4) K.H.Lee, K.H.Park; The Relationship Between Maternal Weight Gain and Birth Weight in Full Term Pregnancy (Samples Selected From The District of Seoul, Chonan, and Kumi). The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.8, No.1:81, 1985.
- 5) Y.M.Jeon, H.K.Shin, I.S.Lee, K.H.Lee, T.H.Cho; The Relationship of Maternal Weight and Height to Birth Weight. Korean Journal of OB & GY., Vol.29, No.1:104, 1986.
- 6) S.S.Shin, H.Y.Kang, S.H.Cha, K.H.Lee, H.Yoo; Clinical Study on Preterm rupture of The Membranes. Korean Journal of OB & GY., Vol.30, No.4:485, 1987.
- 7) S.H.Cha, K.H.Lee, T.H.Cho; Correlation Between Fetal Breathing Movement And Non stress Test in High Risk Pregnancy. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.10, No.1:115, 1987.
- 8) Y.J.Lee, M.C.Lee, K.H.Lee, T.H.Cho, H.Yoo; The Infection of Hepatitis B Virus in Korean Pregnant Women. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.10, No.2:415, 1987.
- 9) J.I.Lee, K.H.Lee, H.Yoo; The Cases of Recurrent Congenital Hydrocephalus. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.11, No.1:85, 1988.
- 10) K.S.Jung, K.H.Jung, K.H.Lee, T.H.Cho; Echocardiographic Estimation of Hemodynamics in Hypertensive Pregnant Woman before and after Hydralazine Administration. Korean Journal of OB & GY., Vol.31, No.8:1060, 1988.
- 11) W.S.Moon, S.H.Cha, K.H.Lee, T.H.Cho, H.Yoo, D.H.Lee; Chromosomal Analysis in Patients Referred from Clinical Department. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.12, No.3, 1989.
- 12) S.H.Cha, D.W.Lee, K.H.Lee, T.H.Cho, H.Yoo; Cytogenetic Prenatal Diagnosis of Chromosomal Abnormalities from The Amniotic Fluid and The Chorionic Villus. The History of OB & GY Department, Soon Chun Hyang University, 1974-1989.
- 13) K.H.Nam, S.H.Cha, K.H.Lee, T.H.Cho; A Study of The Assessment of Gestational Age Using Vaginal Ultrasonography in Early Pregnancy. Korean Journal of OB & GY., Vol.33, 1990.
- 14) H.K.Park, K.H.Nam, K.H.Lee, T.H.Cho; Clinical evaluation of congenital anomaly of newborn. Korean Journal of Obstetrics and Gynecology. 67次 大韓產婦人科學會(春季) 1991.
- 15) S.H.Cha, K.H.Lee; Transvaginal ultrasonography: Diagnosis of congenital anomaly.
- 16) Y.K.Choi, K.H.Nam, S.K.Lee, K.H.Lee, T.H.Cho; Intrauterine fetal death due to umbilical cord torsion and stricture. Korean Journal of Obstetrics and Gynecology. 67次 大韓產婦人科學會(春季) 1991.
- 17) Y.K.Choi, K.H.Nam, K.H.Lee, S.K.Lee, T.H.Cho; The clinico-pathological study of the torsion of adnexae. 產婦人科學會紙 1991;34(11):1154-1157.
- 18) K.H.Nam, H.H.Lee, J.K.Sunwoo, K.H.Lee, T.H.Cho; A comparison of three methods of assessing inter-observer variation applied to measurement of the symphysis-fundal height. 產婦人科學會紙 1991;34(11):1544-1552.
- 19) S.H.Cha, K.H.Lee; 經膈超音波(1). 診斷と治療 1991;11:18-22.

- 20) S.H. Cha, K.H. Lee; 經膈超音波(2). 診断と治療 1991;11:410-412.
- 21) S.H. Cha, K.H. Lee; 經膈超音波(3). 診断と治療 1991;11:154-158.
- 22) S.H. Cha, K.H. Lee; 經膈超音波(4). 診断と治療 1991;11:268-272.
- 23) S.H. Cha, K.H. Lee; 週産期と遺傳(1). 診断と治療 1991;11:545-549.
- 24) S.H. Cha, K.H. Lee; 週産期と遺傳(2). 診断と治療 1991;11:659-662.
- 25) S.H. Cha, K.H. Lee; 週産期と遺傳(3). 診断と治療 1991;11:926-930.
- 26) S.H. Cha, K.H. Lee; 週産期と遺傳(4). 診断と治療 1991;11:1045-1054.
- 27) S.H. Cha, K.H. Lee; 週産期と遺傳(5). 診断と治療 1991;11:1188-1191.
- 28) S.H. Cha, K.H. Lee; 週産期と遺傳(6). 診断と治療 1991;11:1314-1317.
- 29) S.H. Cha, K.H. Lee; 週産期と遺傳(7). 診断と治療 1991;11:1437-1438.
- 30) H.K. Park, K.H. Nam, K.H. Lee, T.H. Cho; The clinical study of congenital anomalies in neonates. 大韓週産期學會紙 1991;2(1):58-67.

1. 所 属: 順天郷大學校 韓國母子保健センタ- 産婦人科
 職 位: 副教授
 姓 名: 李 任 順
2. 研修 期間: 1986年 7月 8日 ~ 1986年 12月 23日
3. 研修場所及 指導教授: 日本 慶應義塾大學 醫學部 産婦人科, 飯塚 理八 教授
4. 研修 分野:
 - 1) 研修分野は 不妊症 (infertility), 特に 卵管形成術 (microsurgical tuboplasty) で あった.
 - 2) 日本 慶應大學産婦人科の 不妊外來, 卵管不妊症 外來, hormone 外來, 内臓症外來 などで研修をうけ
 - 3) 卵管形成術 特に microsurgeryの手技を 研修した.
5. 歸國 後業績:
 - 1) 日本 慶應大學産婦人科で 研修後 歸國した後 順天郷大學校 韓國母子保健センタ-に 不妊症外來及び 卵管不妊症外來を 開設し 不妊及び 卵管外來では 不妊患者の相談, 検査治療を 施行中である.
 - 2) 診断
 - ① 男性因子: 精液検査
 - ② 女性因子: 基礎體温 (BBT) 測定
 - a. 子宮内臓検査
 - b. 月經血培養
 - c. 卵管疏通性検査 ---- 通氣 (Rubin test)
子宮卵管造影
 - d. 頸管粘液検査
 - e. フ-ナーテスト
 - f. ホルモン検査
 - g. 内視鏡検査 ----- Laparoscopy. (Hysteroscopy)
 - 3) 治療
 - ① Tuboplasty (卵管形成術) -- Tubal reanastomosis 101 Case
 - ② AIH, AID (配偶者, 非配偶者間 人工受精) -- AIH 52名
 - ③ Ovulation induction (排卵誘導)
 - 4) IVF-ET (體外受精 - 胚移植): 103 case
 - 5) GIFT (配偶者卵管内移植): 5 case
 以上のように 現在不妊症外來及び 卵管不妊症外來で 臨床的に 活潑な 事業を して居る.
 - 6) 生殖醫學研究室運営
 生殖醫學研究室を 活用して 動物實驗等の basic studyをして 臨床面に 基礎實驗の supportが 可能に なっている.

1. 所 属: 順天郷大學校 韓國母子保健 センタ- 産婦人科
職 位: 助教授
氏 名: 車 相 軒
2. 研修 期間: 1987年 8月 2日 ~ 1988年 2月 2日
3. 研修場所及 指導教授: 日本慶應義塾大學 醫學部 産婦人科, 飯塚 理八 教授
4. 研修 分野:
産婦人科領域において 細胞培養
 - 1) 癌細胞培養及び 抗癌剤の 感受性検査
 - 2) 試験管baby programによって受精卵の 培養
 - 3) 妊娠初期 絨毛膜絨毛及び 妊娠中期 羊水細胞の 培養
5. 歸國後業績
 - 1) 絨毛膜絨毛 生検
妊娠初期 絨毛膜絨毛組織の 培養により 染色体核型分析と絨毛組織を 培養せず 直接法で 染色体の 核型分析が 能能である 故に 妊娠初期 絨毛膜絨毛 生検によって 先天性 異常株に 染色体異常の 発見が 容易になった. 染色体核型分析法中もっとも高度な技術であり 高解像分染法 (high resolution banding technique)の 開発を 試圖中で この方法が 開発されるによって 染色体異常中 構造的異常を 壁にしかもあきらかにすることが 可能であ.
絨毛膜絨毛組織の 凍結法は試圖中でありまた 韓國の 現状では 不可能な 先天性代謝異常疾患等の 診断及び 治療のために 絨毛組織を凍結保存状態とし 外國に 移送して 診断を 可能にさせる. 絨毛組織の凍結に關する主題で 発表豫定です.
 - 2) 癌細胞培養と 感受性検査
感染に 對する 抗癌剤の 選擇は 抗癌剤 感受性検査法が 確立されてすべての 感染患者の 感受性検査を 必修的に 行なっているが 腫瘍患者における 抗癌剤の 感受性検査はまだ確立されてはいないがこの中で *in vitro clonogenic assay (human tumor stem cell assay)*がひろくしられている. 本人は 韓國 産婦人科秋季學會で 子宮頸部癌細胞株による抗癌剤の 感受性 検査實驗成績を 発表するとともにこの 方法が 實際 婦人科 癌患者に適用させ有意な 成績を もたらすとかがえ 婦人科癌患者に 適用させようとする.
6. 國際 學術大會 參席
 - ① Asian-Oceania 産婦人科學會 演題發表 (Bangkok,1991,2)
Chorionic villi sampling in 300 continuing pregnancies
 - ② 日本臨床遺傳學會 招請參席及 講演 (1991,5)
 - a. Cytogenetic prenatal diagnosis in Korea
 - b. Chorionic villi sampling in 300 continuing pregnancies
7. 國內 學術大會 參席
 - ① 韓國 産婦人科 春季學術大會 演題發表
 - a. 絨毛癌 特異絨毛性 腺刺戟 hormoneの 巢株抗體生性に 關する 研究 (1988年 4月)
 - b. First trimester prenatal diagnosis (1990年 4月)
 - ② 韓國 産婦人科 春季學術大會 演題發表
 - a. 絨毛癌特異絨毛性腺刺戟 hormoneの 巢株抗體生性に 關する研究 (1988年 4月)
 - b. First trimester prenatal diagnosis (1990,4)

③ 韓國 産婦人科 秋季學術大會 演題發表

- a. 妊娠初期絨毛膜絨毛の形態解剖學的觀察 (1988年 10月)
- b. 子宮頸部癌 細胞株における 各種抗癌剤の 感受性検査と 形態學的 研究 (1988年 10月)
- c. 婦人科 悪性腫瘍の 診断に 於いて 細針穿刺細胞検査の 效用性 (1989年 10月)
- d. 妊娠初期 胎兒の 異数性 染色体選別で 産母血清alpha-胎兒蛋白の 意味 (1989年 10月)
- e. Sex determination by polymerase reaction (1991年 10月)

8. 醫療 統計 (Table 2)

Table 2. Chromosomal analysis

| | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 |
|----------------|------|----------|------------------------------|--|--|------------------------------------|
| amniotic fluid | 2 | 35 | 70 | 56 | 50 | 46 |
| CVS | 2 | 61 | 192 | 209 | 248 | 220 |
| Total | 4 | 96 | 262 | 265 | 298 | 266 |
| Anomaly | | inv(9):1 | 13p+:1 14p+:1 inv(9):6 | 13p+:1 15p+:1 inv(9):5 | inv(9):6 +18:1 t(7:15):1 t(13:14):1 rec3nv:1 | inv(9):3 t(13:14):1 t(2:8):1 |
| | | | 45.x/47.xxx:1 47.xx +18:1 | 47.xx +21:1 45.xx.t(14:19) (q11;q11):1 | | |

9. 發表 論文

- 1) Chorionic Villi Sampling in Early Pregnancy. The Journal of Soon Chun Hyang University, 1988.
- 2) A Study on In vitro culture of mouse Embryo. The Journal of Soon Chun Hyang University, 1988.
- 3) Chemosensitivity Tests and Morphological Changes of Human Cultured Uterine Cervical Cancer Cell lines. Korean Journal of OB & GY., 1989.
- 4) Survival and In Vitro Development Rate of Frozen Mouse Embryos in various cryoprotectants. Fertility and sterility, 1990.
- 5) Gene therapy. Diagnosis and Treatment. 1990.
- 6) Chromosomal Analysis in patient suspected chromosomal analysis. Diagnosis and Treatment. 1990.
- 7) Interpretation of chorionic villus sampling result. Diagnosis and Treatment. 1990.
- 8) W.S.Moon, S.H.Cha, K.H.Lee, T.H.Cho, H.Yoo, D.H.Lee: Chromosomal Analysis in Patients Referred from Clinical Department. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.12, No.3, 1989.
- 9) S.H.Cha, I.S.Lee, T.H.Cho, H.Yoo: 2 Years' Experience of Chorionic Villous Sampling. The Journal of Soon Chun Hyang University, Vol.12, No.3, 1989

- 10) S.H.Cha, D.W.Lee, K.H.Lee, T.H.Cho, H.Yoo: Cytogenetic prenatal Diagnosis of chromosomal abnormalities from the Amniotic Fluid and The Chorionic Villus. The History of OB and GY department, Soon Chun Hyang University, 1974-1989.
- 11) S.H.Cha, K.H.Nam, I.S.Lee, T.H.Cho: A study of The Influence of The Steroid on Cultured Human Uterine Smooth Muscles. Korean Journal of OB & GY., Vol.33, 1990.
- 12) S.H.Cha, S.S.Kim, I.S.Lee, T.H.Cho: Experimental Study of The Influence of R 2323 in Development of Fertilized Egg. Korean Journal of OB & GY., Vol.33, 1990.
- 13) S.H.Cha, I.S.Lee, K.H.Lee, T.H.Cho: Experimental Study on The Influence of Serum of Endometriosis Patients in Development of Fertilized Egg of Mouse. Korean Journal of OB & GY., Vol.33, 1990.

1. 所 屬: 順天鄉大學校 韓國母子保健 センタ- 産婦人科
職 位: 助教授
氏 名: 李 順 坤
2. 研修 期間: 1988年 11月 ~1989年 5月
3. 研修場所及 指導教授: 日本 慶應義塾 大學病院 産婦人科, 飯塚 理八 教授
4. 研修 内容:
 - 1) Colposcopy
 - 2) Establishment of cancer cell line
5. 歸國後業績:
 - 1) Cancer cell bank
 - ① Endometrial cancer cell line (SNG-II,SNG-M)
 - ② Cervix cancer cell line
 - ③ Ovarian cancer cell line
 - 2) Establishment of cancer cell line
 - ① Cervix cancer: small cell type
 - ② Endometrial cancer
 - ③ Ovary: krukensberg tumor
6. 國際 學會大會 參席:
 - 1) 日本, 東京, Human cell 學會 演題發表
Flowcytometric analysis of the expression of type 1 sugar-chain in cultured cell lines (1989年 8月).
 - 2) 大韓婦人腫瘍, Colposcopy 學會 招請演士, Shiro Nozawa (日本 慶應義塾大)
The present and the future of tumor markers (1991年 11月).
7. 國內 學術大會 參席:
 - 1) 韓國 産婦人科學術大會 演題發表
 - ① Flowcytometric analysis of the expression of type 1 sugar-chain in culture cell lines (1989年 10月).
 - ② Cell biological properties of a human ovarian mucinous cystadenocarcinoma cell line (RMUG) and two sublines (RMUG-S, RMUG-L) (1990年 4月).
 - ③ Abnormal expression of blood group antigens in uterine endometrial carcinoma (1990年 10月).
 - 2) 大韓 Colposcopy, 子宮頸部病理學會 演題發表
A study for colposcopic findings in the invasiveness of carcinoma of the cervix (1989年 11月).
8. 發表 論文:
 - 1) A study for colposcopic findings in the invasiveness of carcinoma of the cervix, Korean Journal of Gynecologic Oncology and Colposcopy, 1990.
 - 2) Abnormal expression of blood group antigens in uterine endometrial carcinoma, The Journal of Soonchunhyang University, 1990.
 - 3) Flowcytometric analysis of expression of type 1 sugar-chain in cultured cell lines, Korean Journal of Obstetrics and Gynecology, 1991.
 - 4) Cell biological properties of a human ovarian mucinous cystadenocarcinoma cell line(RMUG) and two sublines (RMUG-S,RMUG-L), Korean Journal of Obstetrics and Gynecology, 1992.

9. 医療統計 (Table 3)

Table 3. Colposcopy

| Colposcopic findings | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 |
|----------------------|------|------|------|------|------|
| Normal | 135 | 200 | 218 | 280 | 163 |
| SPI | 1 | 0 | 0 | 0 | 40 |
| CIN I | 0 | 9 | 3 | 0 | 18 |
| CINII | 5 | 15 | 1 | 0 | 20 |
| CINIII | 21 | 14 | 25 | 31 | 14 |
| Invasive ca. | 29 | 18 | 23 | 31 | 55 |
| Cervicitis | 41 | 71 | 69 | 63 | 28 |
| Total | 232 | 327 | 339 | 405 | 338 |

10. 必要な医療機資材:

- 1) Colposcopy with teaching scope
- 2) Fluorescence microscope
- 3) Inserted microscope

1. 所 属: 順天郷大學校 韓國母子保健センター- 小兒科
職 位: 教授
氏 名: 李 東 煥
2. 研修 期間: 1982年 10月 19日 ~ 1983年 3月 20日
3. 研修場所及 指導教授:
日本大學 醫學部, 馬場 一夫 教授, 北川 熙男 教授
4. 研修 分野:
 - 1) 新生兒 集中治療
 - 2) 先天性 代謝疾患
 - 3) 新生兒 代謝異常 Screening 検査
5. 歸國後業績:
 - 1) 韓國母子保健センターの 新生兒室と NICUの 設計
 - 2) NICU 活性化; NICUに 入院する 新生兒が 毎年 増加して いる (Table 4,5,6 参照).
例: 650gmの 超未熟兒を 治療した 結果に 依り 韓國で 最初と 言える 記録を 立てる.
 - 3) 代謝異常検査の 重要性を 政府に 強力した 建議 結果で 始めて 1991年 から 政府 (保健社會部)の 事業として 實施する 事に 當センターが 努力した. 1985年から 69623 名に 對し 實施 結果, PKU 1名, Histidinemia 1名, Congenital Hypothyroidism 1名 を 發見し 早期治療して いる (Table 7,8 参照).
 - 4) PKU 父母會の 主管;
全國で 22名の PKU 小兒患兒を すでて 治療を 實施し 毎3個月 おきに PKU 父母會を 開催する.
 - 5) 新生兒で 腹幕透漸 實施: 尿素回路障碍 6名の 新生兒で 腹幕透漸を たすけて 代謝異常症の 3次 病院に なった.
 - 6) 内分泌代謝疾患 特殊 Clinic 運営; 外來 診療時間 - 毎週 月曜日 午後
 - 7) 1992年 11月28日 第34回 日本國 先天性 代謝異常 學會で 韓國に おける 先天性 代謝異常症の 現況を 發表した.
6. NICU及 育兒指導會 強化事業:
 - 1) NICUに 移送する 新生兒の 増加によって NICUを 擴張して 効果的な 移送の 爲に Regionalizationの 基礎研究を 實施する.
 - 2) 定期的な 検診に よって 非正常的 所見を 早く 發見する ように 育兒指導會を 強化し 韓國の 育兒指導會の modelを 作成する (表).
 - 3) 代謝異常検査を 全國的に 擴大實施する ように 先天性代謝異常検査技術者 研修會を 開催する. 代謝疾患の 3次機關の 役割りを する ように 施設を 準備する.
 - 4) 効果は
 - ㊦ 韓國の 新生兒移送の Regionalizationを 確立し
 - ㊧ 育兒指導會の modelを 作成し 全國の保健所と 母子保健 センターに 普及する.
 - ㊨ 代謝異常検査を 全國的に 擴大實施する.
7. 問題點:
 - 1) Gas chromatographyが ないので organic aciduriaの 診斷が できません.
 - 2) NICUに Hemodialysis unitが ないので Peritoneal dialysisの 効果が ないとき 困ります.
 - 3) NICU用 Ambulanceが ないので 效果的 transferが むずかしいんです.
 - 4) Ventilatorが 3臺しか ないので, 其の 臺数が 少ないが爲 外部病院から transfer 患兒を うけるには 非常に 困難點が 多い.
 - 5) 必要な 醫療 機資材:

| | |
|---------------------------------|-------|
| ① Gas chromatography | 1 set |
| ② NICU Ambulance | 1 臺 |
| ③ High Frequency Ventilator | 1 set |
| ④ Ozygen Controller | 3 set |
| ⑤ Ozygen Analyzer | 2 set |
| ⑥ Hemodialysis Unit for Newborn | 1 set |

Table 4. Yearly Stastics of Babies in nursery

| Year | 1985* | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | Total |
|--------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| Total | 946 | 1,594 | 1,729 | 1,768 | 2,290 | 1,944 | 2,329 | 2,446 | 15,046 |
| Male | 461 | 812 | 903 | 895 | 1,240 | 1,001 | 1,256 | 1,287 | 7,855 |
| Female | 485 | 782 | 826 | 873 | 1,050 | 943 | 1,073 | 1,158 | 7,190 |

* from Jul. to Dec.

Table 5. Yearly Stastics of Number of Well Baby, Sick baby and Premature

| Year Class | 1985* | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | Total |
|---------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|--------|
| Well baby | 663 | 1,142 | 1,348 | 1,284 | 1,780 | 1,379 | 1,723 | 1,850 | 11,169 |
| Sick baby | 237 | 391 | 239 | 339 | 342 | 377 | 519 | 360 | 2,859 |
| Premature | 35 | 52 | 67 | 104 | 131 | 188 | 87 | 235 | 869 |
| Total | 935 | 1,585 | 1,654 | 1,727 | 2,253 | 1,944 | 2,329 | 2,445 | 14,897 |

* from Jul. to Dec.

Table 6. Number of Newborn Admitted in NICU and Applicated with the Ventilator

| Year Class | 1985* | 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | Total |
|---------------|-------|------|------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| NICU | 219 | 350 | 820 | 1,138 | 1,310 | 2,098 | 1,734 | 1,846 | 9,515 |
| Ventilator | 8 | 27 | 51 | 61 | 115 | 131 | 150 | 136 | 679 |

* from Jul. to Dec.

Table 7. Number of Neonatal Screening Test

| Year | No. |
|-------|--------|
| 1985 | 493 |
| 1986 | 698 |
| 1987 | 8,521 |
| 1988 | 3,991 |
| 1989 | 1,302 |
| 1990 | 5,804 |
| 1991 | 33,818 |
| 1992 | 13,160 |
| 1993* | 2,556 |
| Total | 69,623 |

* from Jan. to Feb.

Table 8. Result of Neonatal Screening Test

| Disease | No. of Case | No. of Detection | Incidence |
|------------------------|-------------|------------------|-----------|
| Phenylketonuria | 69,623 | 1 | 1/69,623 |
| Maple syrup urine dis. | 69,623 | 0 | |
| Homocystinuria | 69,623 | 0 | |
| Histidinemia | 69,623 | 1 | 1/69,623 |
| Cong. Hyperthyroidism | 69,623 | 16 | 1/4,351 |
| Total | 69,623 | 18 | 1/3,868 |

1. 所 属: 順天郷 大學校 韓國母子保健 センタ- 小兒科
職 位: 教授
氏 名: 金 彰 輝
2. 研修 期間: 1984年 11月 27日 ~ 1985年 4月 20日
3. 研修 場所及 指導 教授:
 - 1) 埼玉縣立 小兒醫療 センタ- 循環器科 簡 瑞祥 先生
 - 2) 久留米 大學病院 小兒科 加藤 裕久 教授
4. 研修 分野: 小兒 心臟學 (心カテ-テル 検査と 心エコ- 検査及び Kawasaki病)
5. 歸國後業績:
 - 1) 歸國後 心臟 特殊 Clinic 運營
 - ① 外來 診療 時間: 毎週 水曜日 午後
 - ② 心臟特殊 検査 時間: 毎週 月, 木, 金曜日 午前
 - ③ 1985年から 1992年 までの 心エコ- 検査 例數と 心疾患の 種類 (Table 9, 10 参照).
 - 2) 國際 學術大會 參席
 - ① The '90 Workshop on Color Flow Mapping in OB/GY and Echocardiography Workshop. Singapore (Sept. 19-25, 1990)
 - ② The 10th Asian-Pacific Congress of Cardiology and The 5th Asian Congress of Pediatric Cardiology. Seoul, Korea (Oct. 7-13, 1991)
 - ③ The Hong Kong Symposium on Paediatric Cardiology and Paediatric Cardiac Surgery. Hong Kong (Nov. 2-4, 1992)
 - 3) 研究と 發表 論文
 - ① 心エコ- 検査と 心カテ-テル 検査の 肺體血流量の 比較に 關する 研究 (研究中).
 - ② 血管と 心臟内の 正常 血流速度に 關する 研究 (研究中).
 - ③ Kawasaki病の 冠動脈 (coronary artery) 變化に 關する 研究 (研究中).
 - ④ 胎兒 心エコ- 検査 (fetal echocardiography) と 經食道 (transesophageal echocardiography) 検査に 研究 (豫定).
 - ⑤ 論文 (添附 論文 参照).
 - 4) 開心術 (open heart surgery) 現況 (Table 11 参照).
 - ① 1986年から 1992年までの 開心術 例數は 總 166例である.
 - ② 特に 1991年の 手術 死亡率は 0%である.
 - 5) Pediatric Cardiology 強化 事業

小兒 心臟學 分野は 日本での 研修後 胸廓外科との 密接な 協力のもとに 診断及び 開心術が 活潑に 進行されているが もっと 活潑な 研究と 發展を 願うために,

 - ① 小兒 心疾患の 診断及び 治療水準を 向上させる.
研修 當時では 心カテ-テル 検査と 心エコ-検査及び Kawasaki病に 對してであった. 今後も 各種 小兒 心疾患の 診断と 治療の 水準を 向上させるためには Dopplerと Color Doppler 心エコ- 検査及び 妊娠中における 先天性 心疾患の 發見及び 分娩後 Well Baby Clinicや 外來での 追跡 觀察及び 治療のためには 胎兒 心エコ-検査が 必要となる.
 - ② 母子保健 センタ-で 發見される 心疾患 患兒の 移送體系を 確立させる ようにする.
地域 母子保健 センタ-で 發見した 先天性 心疾患患兒の 移送體系の 確立のために 一次的に 當 センタ-に 隣接する 2-3個所を 選定し 示範的に 運營する 計劃であり, そのためには 該当地域の 醫師の 小兒 心疾患についての 教育と 研修を 計劃している.

③ 学校での心疾患に対する集団検診の計画を樹立させるようにする。

心疾患の発見をより積極的にするために一次的に當センター周囲の幼稚園、国民学校、中学校及び高等学校学生に対する集団検診計画を立て結果を分析して問題点の補完をして漸次検診地域の拡大及び集団検診に便利な check listを作成する計画である。

6) 問題点:

- ① 先天性心疾患患児の心エコー検査は内科の心超音波機械を利用しているから特に状態が良くない新生児の心エコー検査にいろいろ問題がある。
- ② 心エコー検査を利用して胎児心疾患の産前診断をする爲に小児科自體の新しい model の心超音波機械が必要である。
- ③ 正確な診断をする爲に最近に開発された経食道探燭子 (transesophageal transducer) が必要である。
- ④ 胎児及び経食道心エコー検査に対する日本国または米国内で心エコー検査が活潑な大學病院で研修が必要である。
- ⑤ 必要な醫療機資材:
 - a. Doppler と Color Doppler 検査が可能な新しい心超音波機械。
 - b. 12 Channel 心電圖機械。

Table 9. Echocardiographic Examination Cases

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | 6 | 7 | 8 | 9 | 10 | 11 | 12 | Total |
|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----------|
| 1985 | - | - | - | 9 | 10 | 15 | 18 | 11 | 11 | 4 | 5 | 7 | 90 |
| 1986 | 7 | 5 | 6 | 9 | 8 | 9 | 15 | 4 | 9 | 19 | 13 | 13 | 117 |
| 1987 | 14 | 12 | 16 | 19 | 20 | 18 | 12 | 17 | 13 | 13 | 8 | 8 | 170 |
| 1988 | 13 | 5 | 19 | 12 | 17 | 14 | 5 | 15 | 12 | 12 | 16 | 14 | 154 |
| 1989 | 5 | 14 | 26 | 21 | 22 | 22 | 24 | 26 | 21 | 19 | 29 | 15 | 244 |
| 1990 | 22 | 22 | 18 | 23 | 28 | 28 | 21 | 30 | 19 | 19 | 16 | 22 | 345(77) |
| 1991 | 26 | 12 | 21 | 34 | 31 | 16 | 31 | 35 | 39 | 29 | 24 | 14 | 469(157) |
| 1992 | 29 | 19 | 26 | 22 | 19 | 30 | 20 | 23 | 15 | 19 | 17 | 15 | 446(192) |

※ 心超音波検査例数は毎年増加趨勢である。

※ 1990年6月から毎月2回順天郷天安病院で心超音波検査をやっている。

()は順天郷天安病院の心超音波検査例数で今までの検査例数は426名である(1990年: 77名, 1991年: 157名, 1992年: 192名)。

天安病院も検査例数が漸次増加趨勢である。

Table 10. Echocardiographic Disease Entity (1986-1992)

| Disease | No. | Disease | No. |
|---------------------|-----|-------------------------|-----|
| VSD | 263 | PVC | 9 |
| VSD + PH | 10 | WPW syndrome | 5 |
| VSD + ASD | 22 | JRA | 2 |
| VSD + Aneurysm | 36 | Normal | 73 |
| VSD + Dextrocardia | 1 | DORV | 1 |
| VSD + PDA | 16 | Tricuspid atresia | 2 |
| VSD + PS | 15 | Dextrocardia + VSD + PS | 1 |
| VSD + DCRV | 1 | Dextrocardia | 1 |
| VSD + AR | 3 | D-TGA + PS | 2 |
| ECD | 18 | D-TGA + VSD | 3 |
| Postop. VSD | 57 | L-TGA + VSD + ASD + PS | 1 |
| Postop. VSD + PDA | 3 | L-TGA + TR | 1 |
| Postop. VSD + PH | 4 | PS | 31 |
| Postop. VSD + PS | 3 | PS + DCRV | 1 |
| Postop. VSD + AR | 2 | Postop. PS + DCRV | 1 |
| ASD | 60 | AS | 7 |
| ASD + PS | 4 | Infective endocarditis | 1 |
| ASD + PDA | 9 | Ebstein anomaly | 2 |
| ASD + PARVR | 1 | Postop. Ebstein | 1 |
| Postop. ASD | 8 | Marfan syndrome | 1 |
| Postop. ASD + PS | 2 | Cardiomyopathy | 7 |
| Postop. ASD + PAPVR | 1 | MVP | 3 |
| Postop. ECD | 2 | Pericardial effusion | 3 |
| PDA | 60 | Rheumatic carditis | 33 |
| Postop. PDA | 6 | RBBB | 5 |
| TOF | 26 | MCLS | 157 |
| Postop. TOF | 4 | Unknown | 9 |
| Truncus arteriosus | 2 | Miscellaneous | 7 |
| TAPVR | 3 | | |
| Total | | 1012 | |

Table II. Number of Open Heart Surgery (1986-1992)

| CHD \ AGE | AGE | | | | Total |
|-----------------|-----------|-----------|-----------|-----------|------------|
| | 1Yr | 1-4Yr | 5-9Yr | 10-14Yr | |
| VSD (II) | 4 | 20 | 12 | 24 | 60 |
| VSD (I) | 0 | 4 | 7 | 4 | 15 |
| VSD + AR | 0 | 0 | 1 | 3 | 4 |
| VSD + PH | 1 | 2 | 0 | 1 | 4 |
| VSD + PDA | 0 | 3 | 1 | 1 | 5 |
| VSD + DCRV | 1 | 1 | 0 | 0 | 2 |
| VSD + PS | 1 | 1 | 3 | 3 | 8 |
| VSD + ASD | 0 | 1 | 0 | 0 | 1 |
| ASD | 0 | 7 | 6 | 5 | 18 |
| ASD + PARVR | 0 | 2 | 0 | 3 | 5 |
| ASD + PS | 0 | 1 | 2 | 0 | 3 |
| ASD + PDA | 0 | 2 | 0 | 0 | 2 |
| ECD | 0 | 1 | 1 | 2 | 4 |
| Ebstein anomaly | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 |
| PDA | 2 | 1 | 5 | 6 | 14 |
| PS | 0 | 0 | 1 | 2 | 3 |
| COA | 0 | 1 | 0 | 1 | 2 |
| AS | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| TDF | 3 | 1 | 1 | 3 | 8 |
| A-V Fistula | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| IHSS + PDA | | 1 | | | 1 |
| DCRV | | | | 1 | 1 |
| MSR + AR | | | | 2 | 2 |
| MSR + TR | | | | 1 | 1 |
| Total | 12 | 49 | 41 | 64 | 166 |

※ Mortality: 1986; 1/41 (2.4%)
 1987; 1/32 (3.1%)
 1988; 0/20 (0.0%)
 1989; 2/19 (10.5%)
 1990; 1/17 (5.9%)
 1991; 0/22 (0.0%)
 1992; 1/15 (6.7%)

1. 所 属: 順天郷大學 韓國母子保健 センター- 小兒科
職 位: 副 教 授
氏 名: 朴 在 玉
2. 研修 期間: 1985年 12月 4日 ~ 1986年 5月 31日
3. 研修場所及 指導教授:
1) 慶應義塾 大學病院: 小佐野 萬 教授
2) 聖 マリアンナ 大學病院: 堀内 勁 教授
4. 研修分野:
1) 胃腸管内視鏡術
2) 腹部及び 頭蓋腔内 超音波施設法
5. 歸國後業績:
1) 小兒 消化器病 特殊 クリニック 運営
① 外來 診療時間: 木曜日 午前
② 特殊 検査時間: 水, 金曜日 午後
③ 1986年から-1992年までの 検査例数と疾患の 種類 (Table 12~15 参照).
2) 研究論文: 別添 論文 参照
① 腸重疊症の 超音波診断と 超音波映像下 生理食鹽水 征服術 5例: 小兒科
30:901-906, 1987
② 小兒服部 種塊の 臨牀的 考察-超音波 的 診断に ついで: 小兒科 34:380-387,
1991
③ 頭部 超音波 検査法を 利用した 韓國 新生兒の 腦室の 大きさ: 順天郷大學
論文集 14:495-508, 1991
④ 未熟兒と 低出生體重兒で 腦超音波術を つかって 腦室周囲及び 腦室内 出血の
診断: 第42次 大韓 小兒科學會 口演 發表
⑤ 未熟兒の 胚氣質及び 腦出血: 第42次 大韓 小兒科學會 口演 發表
⑥ 韓國 新生兒 副腎の 大きさ: 第42次 大韓 小兒科學會 口演 發表
6. 問題點:
1) NICU 單獨用 超音波機械が ないので
① 呼吸器と 補助裝置を つかっているが爲未熟兒で 適切な 時期に 即刻的 診断
ができません.
② 症狀が ない 未熟兒の 基本的 頭蓋内超音波 検査も 不可能の 状態である.
③ 頭蓋内 病變が あつても 追跡検査を する 豫定の 未熟兒が 長い 時間を 待つ
状態です.
2) 噴門弛緩症, 巨大結腸症, 胃腸障碍等を 診断する 機械が ないので 困ります.
3) 習らつた 技術を 再確認する ように, 發達 された 消化器 診断法の 研修の ため
に 研究が 活潑な 大學病院での 研修が 必要である.
7. 必要な 醫療 機資材:
1) NICU 單獨用 超音波機械
2) 食道 24時間 pH 測定機, 肛門 壓力械, 胃腸管内視鏡

Table 12. Number of Craniosonography

| 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | Total |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 11 | 26 | 29 | 64 | 61 | 178 | 232 | 598 |

* from Jun. to Dec

Table 13. Craniosonographic Disease entity

| Disease | No. | Disease | No. |
|-------------------------|-----|-----------------------------|-----|
| Intracranial hemorrhage | 194 | Hydrancephaly | 2 |
| Hypoxic brain damage | 51 | Agenesis of corpus callosum | 2 |
| Menigitis | 5 | Porencephaly | 1 |
| Microcephaly | 1 | Asymmetric ventricle | 31 |
| Hydrocephalus | 7 | Arnold-Chiari malformation | 1 |
| Cerebral infarction | 1 | Prematurity | 297 |
| Cerebral calcification | 4 | | |
| | | Total | 598 |

Table 14. Number of Abdominal Sonography

| 1986 | 1987 | 1988 | 1989 | 1990 | 1991 | 1992 | Total |
|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 31 | 89 | 64 | 128 | 171 | 183 | 154 | 820 |

* from Jun. to Dec.

Table 15. Abdominal Sonographic Disease entity

| Disease | No. | Disease | No. |
|----------------------------|-----|--------------------------|-----|
| Cong. pyloric stenosis | 21 | GB hydrops | 6 |
| Cholestatic jaundice | 36 | Choldochal cyst | 5 |
| Intussusception | 20 | Atonic bladder | 2 |
| Ovarian cyst | 5 | Splenic hemorrhage | 2 |
| Epididymoorchitis | 5 | Liver Ca. | 6 |
| GB stone | 2 | Fatty liver | 6 |
| Cholecystitis | 5 | Situs inversus | 4 |
| Lymphoma | 9 | Meconium peritonitis | 4 |
| Splenomegaly | 25 | Neuroblastoma | 7 |
| Hepatomegaly | 25 | Adrenal carcinoma | 2 |
| Liver cirrhosis | 8 | Adrenal hypertrophy | 2 |
| Wilms' tumor | 2 | Hyperthyroidism | 5 |
| Premature thelarche | 1 | Hypothyroidism | 3 |
| Stool mass | 14 | Thyroid cancer | 2 |
| Pancreatitis | 2 | Renal parenchymal dz. | 35 |
| Cryptochidism | 3 | Renal cyst | 9 |
| Hydronephrosis | 37 | Renal stone | 2 |
| Ureterocele | 1 | Cystitis | 17 |
| Renal carbuncle | 2 | Achalasia | 1 |
| Multicy. dysplastic kidney | 6 | Neurofibromatosis | 1 |
| Appendicitis | 17 | Hydrocele | 3 |
| Abd. abscess | 10 | Mesenteric Lymphadenitis | 2 |
| Intestinal obstruction | 12 | AGE | 3 |
| Ovarian tumor | 1 | Adrenal hyperplasia | 1 |
| Diaphragm eventration | 2 | Omental cyst | 1 |
| Small GB | 1 | Dermoid cyst | 1 |
| Neck mass | 1 | Ascites | 9 |
| Hepatoblastoma | 1 | W.N.L | 403 |
| Hepatitis | 2 | | |
| | | Total | 820 |

1. 所 属: 順天郷大學校 韓國母子保健 センター- 小兒科
職 位: 副教授
氏 名: 片 復 陽
2. 研修 期間: 1986年 7月 8日 ~ 1986年 12月 31日
3. 研修 場所及 指導 教授: 東京 國立小兒病院 アレルギー-科, 飯創 洋治 部長
4. 研修 分野:
 - 1) 小兒 アレルギー- 疾患 全般に わたって 診断及び 治療
 - 2) 臨床 免疫學の 基礎 研究
 - 3) 研修基間中 行なった 臨床研究 結果を 第 23回 日本 アレルギー-學會で 発表
5. 歸國後 業績:
 - 1) 歸國後 順天郷大學校 韓國母子保健 センター- 小兒科で アレルギー-Clinic 開設, 患者 診療及び 豫防法教育, 專攻醫及び 醫科大學生 教育に あたっている.
 - 2) 1987年 國立小兒病院 飯創 洋治 部長, 永倉 俊和先生 來韓, 現地 指導及び 機資材 設置.
 - 3) 小兒 アレルギー- 患者に 關する 研究論文を 小兒科學會及び 大韓 小兒 アレルギー- 研究會で 発表.
 - 4) 1988年 5月 6日 東京で 開催された 日・韓 Symposiumで 研究論文 発表.
 - 5) 1990年度 文教部 支援 韓國學術振興財團の 大學附設研究所支援 學術研究 助成費で “アレルギー- 疾患の 母子間 移行に 關する 研究”を 発表. Allergy 12:239-250, 1992
 - 6) 研究論文 (別添 論文 参照).
6. 現在 小兒 アレルギー-に 關して 米國 USCで 留學中 (留學期間: 1992年 7月 ~ 1993年 6月 豫定)

THE LIST OF PAPER

Department of Pediatrics(1984-1992)

※ 1989年までの小児科論文 List (No.1-153)は最終報告参照

154. Jun Soo Park, Kyeong Hwan Oh, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Lee : A case of the Williams Elfin Face Syndrome associated with Mitral Insufficiency, The Journal of Soonchunhyang University, 13:3, 1990
155. Woo Lyeong Lee, Dong A Lee, Jae Ok Park, Sang Jhoo Lee : A Clinical Analysis on Acute Appendicitis in Children, Journal of Korean Pediatric Association. 33:12, 1990
156. Myung Ku Cho, Chin Dong Kim, Kang Il Lee, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : Clinical Evaluation in Lipoid Pneumonia, Journal of Korean Pediatric Association. 33:12, 1990
157. Hyun Kuk Kim, Min Yong Oum, Bok Yang Pyun, Sang Jhoo Lee: A Clinical and Diagnostic Study of the Allergic Rhinitis in Children. Journal of Korean Pediatric Association: Vol.33, No. 2 , 1990.
158. Kui Ae Jang, Kyeng Bae Park, Jae Ock Park : Statistical Analysis of Death Cases in Pediatric Ward : Journal of Korean Pediatric Association. Vol.33, No.1, 1990.
159. Hyun Kuk Kim, Sung Ik Cho, Byoung Tae Kim : A Case of Sirenomelia:Journal of Korean Pediatric Association. Vol.33, No. 2, 1990.
160. Sang Eun Lee, Meen Jai Lee, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Case of Nonimmunologic Hydrops Fetalis Associated with Down Syndrome, Journal of Korean Pediatric Association : Vol.33 ,No.2, 1990.
161. Meen Jai Lee, Sang Eun Lee, Dong Whan Lee, Sang Jhoo Lee :Glucose-6-phosphate Dehydrogenase Deficiency: Journal of Pediatric Association. Vol.33, No.2, 1990.
162. Sung Ik Cho, Min Yong Oum, Jae Ock Park: Cystinuria in Siblings :Journal of Korean Pediatric Association. Vol.33, No.3, 1990.
163. Kyung Hwan Oh, Joon Soo Park, Hak Joo Cha, Sang Jhoo Lee : A Case of Cloacal Exotrophy : Journal of Korean Pediatric Association. Vol.33, No.11, 1990.
164. Kyeong Back Park, Joo Soo Park, Jae Ock Park, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Lee : Clinical Study of Foreign Bodies in the Respiratory and Gastrointestinal Tract. The Journal of Soonchunhyang University: Vol.13, No.3, 1990.
165. Myeong Ku Cho, Suk Min Choi, Hak Ju Cha, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : Two Cases of Meningoencephalitis Associated with Mycoplasma Pneumonia. The Journal of Soonchunhyang University Vol.13, No.3, 1990.
166. Kyeng Bae Park, Myung Lye Kim, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Case of Cri Du Chat Syndrome. The Journal of Soonchunhyang University Vol.13, No.3, 1990.
167. Dong A Lee, Hye Kyung Nam, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Lee : A Case of Hydranencephaly. The Journal of Soonchunhyang University : Vol.31, No.3 , 1990.
168. Kyeong Hwan Oh, Woo Lyeong Lee, Sang Chul Park, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Study on Lighting in School, Journal of Korean Pediatric Association. 33:12, 1990
169. Myeong Ku Cho, Kyeong Bae Park, Kyu Bum Cho, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee, Dong Hwa Lee: Two Cases of Pancreatic Islet Cell Hypertrophy Associated with Nesidioblastosis, Journal of Korean Pediatric Association. 34:2, 1991

170. Hae Kyeong Nam, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : The Two Cases of Meconium Peritonitis, Journal of Korean Pediatric Association. 34:12, 1991
171. Joo Suk Meng, Sung Sin Park, Jae Ock Park, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : Clinical Analysis on Congenital Malformation, The Journal of Soonchunhyang University, 14:4, 1991
172. Jee Hee Chung, Sang Mook Choi, Bok Yang Pyeon, Sang Jhoo Lee : Comparative Study of Theophylline Level in Serum and Saliva, The Journal of the Korean Society of Allergology, 11:3, 1991
173. Myung Lye Kim, Chang Soo Oh, Bok Yang Pyeon, Sang Jhoo Lee : Study of Predictive Factors to Bronchial Asthma in Wheezy Infants, The Journal of the Korean Society of Allergology, 11:4, 1991
174. Jin Seop Sim, Hae Kyeong Nam, Won Suk Seo, Sang Man Sin, Sang Jhoo Lee, Won Bae Kim : A Case of Acute Megakaryoblastic Leukemia with Chloroma in Infants, Journal of Korean Hematology Association, 26:1, 1991
175. Sang Man Sin : The Platelet Count, Mean Platelet Volume, Plateletcrit and Platelet Distribution Width in Korean Neonate, The Journal of Soonchunhyang University, 14:2, 1991
176. Lee Choi, Joo Suk Meng, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : Body Part Identification in 1 to 5-year-old Children, Journal of Korean Pediatric Association. 34:12, 1991
177. Yang Bin Im, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Study of Phenylalanine Amount in Confectionary on Sale in Korea, The Journal of Soonchunhyang University, 14:2, 1991
178. Kil Hyun Kim, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Study on Normal Levels of Plasma and Urinary Amino Acids on Korean Children, The Journal of Soonchunhyang University, 14:2, 1991
179. See Hwan Ko, Chang Soo Oh, Won Suk Seo, Sang Man Sin, Sang Jhoo Lee, Dong Hwa Lee : Ectopic Pancreas with Upper Gastrointestinal Bleeding, The Journal of Soonchunhyang University, 14:2, 1991
180. Dong Hwan Lee : Treatment in Disease of Amino Acid Metabolism, The Korean Journal Biochemistry, 23:1, 1991
181. Bok Yang Pyeon : Current Management of Childhood Asthma, The Journal of Korean Society Allergology, 11:2, 1991
182. Suk Min Choi, Myung Ku Cho, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Case of Congenital Lactic Acidosis, Journal of Korean Pediatric Association. 34:1, 1991
183. Yeun Mi Kim, Chang Hwi Kim : Echocardiography in Congenital Heart Disease. 최신 의학 Vol. 34, No.9, 1991.
184. Dong Hwan Lee, Chul Lee, Chong Guk Lee, Yong Seung Hwang, Sung Ho Cha, Yong Choi : The Incidence of Complications in Severly Obese Children. The Journal of Korean Pediatric Association : Vol.34, No.4, 1991.
185. Dong A Lee, Woo Ryoung Lee, Jae Ock Park, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Lee : Clinical Review of Abdominal Masses in Infant and Children, (Emphasis on Ultrasonographic Diagnosis), The Journal of Korean Pediatric Association : Vol.34, No.3, 1991
186. Woo Lyeong Lee, Kyeong Hwan Oh, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Lee : Adrenocortical Carcinoma in A Twelve Month Old Male Infant, Journal of Korean Pediatric Association 34:1, 1991

187. Lee Chol, Young Chang Kim, Hak Joo Cha, Sang Jhoo Lee, Chil Sae Lee, Jung Ki No, Soung Ha Yang, Chang Jin Kim : Two Case of Thymolipoma, Journal of Korean Pediatric Association 34:11, 1991
188. Sung Sin Park, Jee Hee Chung, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : Clinical and Statistical Observation for Very Low Birth Weight Infants, Journal of Korean Pediatric Association 34:12, 1991
189. Suk Nangoong, Byung Tae Kim, Sang Jhoo Lee : A Case of Wilms' Tumor, The Journal of Soonchunhyang University. 15:4, 1992
190. Jong Bok Kim, Sang Chul Park, Byung Tae Kim, Young Chang Kim, Hak Joo Cha, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Clinical and Statistical Study on Meconium Stained Babies, The Journal of Soonchunhyang University. 15:4, 1992
191. Jee Yyeol Kim, Eun Sook Seo, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Case of Herpes Simplex Encephalitis, The Journal of Soonchunhyang University. 15:4, 1992
192. Soon I Chung, Eun Suk Seo, Sang Jhoo Lee : Two Cases of Agenesis of Corpus callosum. The Journal of Soonchunhyang University. 15:4, 1992
193. Joon Young Lee, Sang Chul Park : A case of Pyogenic Multiple Liver Abscess, The Journal of Soonchunhyang University, 15:4, 1992
194. Eun Suk Seo : Infantile Spasm, The Journal of Soonchunhyang University, 15:4, 1992
195. Hae Kyeong Nam, Jin Seop Sim, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee, Ki Won Cha, Jyung Bin Im : A Clinical Study in Phenylketonuria, Journal of Korean Pediatric Association. 35:1, 1992
196. Joo Suk Meng, Hae Kyeong Lee, Jae Ock Park, Sang Jhoo Lee, Chul Moon, Dong Hwa Lee : A Case of Omental cyst, Journal of Korean Pediatric Association. 35:1, 1992
197. Sang Mook Choi, Chang Soo Oh, Sang Chul Park, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Lee : A Study of Serologically Confirmed Measles, Journal of Korean Pediatric Association. 35:4, 1992
198. Jee Hee Jung, Sung Sin Park, Byung Tae Kim, Eun Mi Kim, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Case of Gaucher's Disease, The Journal of Soonchunhyang University. 14:4, 1992
199. Chang Soo Oh, Sang Muk Choi, Jae Ock Park, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Kim: A Case of Prune Belly Syndrome Associated with Turner Syndrome. The Journal of Korean Pediatric Association : Vol.35, No.7 , 1992.
200. Jin Seop Shim , Sang Mook Kuk, Eun Mi Kim, Jae Ock Park, Sang Jhoo Lee : A Nonfamilial Case of multiple Juvenile Polyposis. The Journal of Korean Pediatric Association : Vol.35, No.6, 1992
201. Myung Lye Kim, Rhie Choi, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee : A Case of Neonatal Hypothyroidism due to Maternal TSH-binding Inhibitor Immunoglobulin. The Journal of Korean Pediatric Association: Vol.35 No. 6, 1992.
202. Hye Yong Lee, Bok Yang Pyun, Sang Jhoo Lee : A Study of Switching Time of Constant Aminophylline Infusion Therapy to Oral Thiophylline in Acute Asthma Attack. The Journal of the Korean Society of Allergology: Vol.123, No.2 June , 1992.

203. Joon Soo Park, Sang-Chul Park, Dong Whan Lee, Sang Jhoo Lee : Effect of Position Change and Tilting on Transcutaneous Partial Pressure of Oxygen and Carbon Dioxide and Pulse Oxygen Saturation Values in the Neonates. The Journal of Soonchunhyang University : Vol.15, No.2, 1992.
204. Suk Min Choi, Joon Soo Park, Sang Chul Park, Dong Hwan Lee, Sang Man Sin, Sang Jhoo Lee, Jae Eog Ann : An Evaluation of Percentage body fat by NIR Method on children. The Journal of Soonchunhyang: Vol. 15, No.2, 1992.
205. Bok Yang Pyun, Cang Hwi Kim, Dong Hwan Lee, Sang Jhoo Lee, K.S. Lee, Kweun Hae Lee, Tae Ho Cho: A Study of Maternal-Fetal Transmission of Allergic Disease. The Journal of Korean Society of Allergology: Vol. 12. No.2, 1992.
206. Dong Hwan Lee : Diagnosis & Clinical Manifestation in Childhood Obesity, The Journal of Obesity Association, 1:1, 1992
207. Yong Sik Min, Dae Hyun Cho, Byung Tae Kim, Hak Joo Cha, Sang Jhoo Lee, Seung Ha Yang : A case of Retroperitoneal Liposarcoma in a Child, The Journal of Soonchunhyang University 15:4, 1992
208. Hak Joo Cha, Chang Sae Kim : Study on the Abnormal α -Chain of Hemoglobin in Korea The Journal of Soonchunhyang University, 14:4, 1992
209. Eun Mi Kim : Spontaneous Remission of Recurrent Focal Segmental Glomerulo-sclerosis in transplanted kidney, The Journal of Soonchunhyang University, 15:1, 1992
210. Chul Hee Chung, Chang Kui Im, Kyeong Hwan Oh, Sang Chul Park, Sang Jhoo Lee : A case of Congenital Sensory Neuropathy with Anhydrosis, The Journal of Soonchunhyang University, 15:2, 1992
211. Soon I Chung, Suk Nangung, Chul hee Chung, Byung Tae Kim, Sang Chul Park, Sang Jhoo Lee : A Case of Neonatal Hydrometrocolpos due to Vaginal Septum, The Journal of Soonchunhyang University, 15:2, 1992
212. Jong Bok Kim, Sang Chul Park, Byung Tae Kim, Hak Joo Cha, Jong Suk Lee, Chang Jin Kim : Epidermolysis Bullosa Dystropica, The Journal of Soonchunhyang University, 15:2, 1992
213. Chang Kui Im, Sang Chul Park : A Case of Apert Syndrome, The Journal of Soonchunhyang University, 15:2, 1992
214. Jae Ock Park : Craniosonographic Measurement of Ventricular Size in Korean Newborn Infant, The Journal of Soonchunhyang University, 14:2, 1992
215. Chang Soo Oh, Myeong Lye Kim, Byung Tae Kim, Sang Jhoo Lee, Soo Hyung Seo : A Case of Hydrometrocolpos Causing Urinary Obstruction, Journal of Korean Pediatric Association, 35:11, 1992
216. Hae Kyung Lee, Bok Yang Pyun, Sang Jhoo Lee : Etiologic Allergens, Blood Eosinophile Count and Total Ig E level According to Age and Site of Skin Lesion in Atopic Dermatitis. The Journal of the Korean Society of Allergolog : Vol.12, No.12, March, 1992.
217. Im Soon Lee, Chang Hwi Kim, Sang Jhoo Lee, Tai Ho Cho : Measurement of Serum Rubella Antibody Titers in Korean Children, Female Adolescents, and Pregnant Women. Asia-Oceania J. Obstet. Gynaecol. 18:4, 1992

THE LIST OF EQUIPMENTS WHICH IS NECESSARY FOR MATERNAL AND CHILD
HEALTH PROJECT

| | |
|--|-------|
| 1. Gas chromatography | 1 set |
| 2. High frequency ventilator | 1 set |
| 3. Ultrasonography for NICU and OB & GY (Doppler & Color Doppler) | 2 set |
| 4. Esophageal pH monitor | 1 set |
| 5. Oxygen controller | 3 set |
| 6. Oxygen analyzer | 2 set |
| 7. 12 channel electrocardiography | 1 set |
| 8. Hemodialysis unit for newborn | 1 set |
| 9. Fiberscope for children | 1 set |
| 10. Gastrointestinal manometer | 1 set |
| 11. Fetal heart rate monitor | 4 set |
| 12. Colonoscopy with teaching scope | 1 set |
| 13. Fluorescence microscope | 1 set |
| 14. Inverted microscope | 1 set |
| 15. NICU ambulance | 1 臺 |

JICA 寄贈裝備中 補修及交替 器械

1) 補修 品目

('93年 3月現在)

| 購入日字 | 品名及 Model | 取得金額 | 数量 | 受理金額 | 備考 |
|------------|--|-------------|-------|-------------|------------------------|
| (新生児室) | | | | | |
| 85. 5. 1 | Acid-Base Analyzer, Radiometer, ABL-30 | ¥7,780,000 | 1 Set | ¥4,878,130 | Thermo Printer 交替 外. |
| 90. 8. 10 | Auto Dry Chemistry analyzer, Spotchem, SP-4410 | ¥1,540,000 | 1 Set | 77,000 | Tip Sensor 不良 交替 |
| 86. 11. 21 | Infant Incubator, Trans-Port, Atom, V-80TR | ¥1,310,000 | 1 Set | 350,000 | Power Pack 外 1種 修理 |
| 88. 5. 14 | Neonatal Monitor, Nec Sanci 2K01 | ¥18,714,000 | 1 Set | 99,990 | Condensor 交替 |
| 85. 5. 1 | Topo2 Monitor, Sensomat | ¥3,300,000 | 1 Set | 488,400 | Regulator Board 外 修理 |
| 85. 5. 1 | Infant Ventilator, Toitu, FB800 | ¥2,000,000 | 1 Set | 1,890,000 | Oxygen Blender 外 交替 |
| | | | | ¥7,783,520 | |
| (分娩室) | | | | | |
| 86. 11. 21 | Vital Sign Monitor, Dinamap, 845XT | ¥5,000,000 | 2 Set | 450,000 | Pressure 故障 外 I.C 外 交替 |
| 85. 5. 1 | Fetal Monitoring System, San-Ei, 2J21 | ¥17,400,000 | 4 Set | 3,249,400 | Transducer 外 交替 |
| | | | | ¥3,699,400 | |
| (臨床病理科) | | | | | |
| 85. 5. 1 | Amino Acid Analyzer, Hitachi, 835-30 | ¥10,900,000 | 1 Set | 1,466,000 | Thermal Head 外 交替 |
| 88. 5. 14 | Clinical Chemistry Analyzer, Shimadzu CL-7000 | ¥19,080,000 | 1 Set | 3,071,600 | 3-way Valve Assy 外 交替 |
| 85. 5. 1 | Electron Microscope, Hitachi, H-300 | ¥11,300,000 | 1 Set | 1,100,000 | Mechanical Valve 外 交替 |
| | | | | ¥5,637,600 | |
| (心導子室) | | | | | |
| 86. 3. 17 | X-Ray App. Cine Angiography, Hitachi, | ¥60,322,000 | 1 Set | 4,227,000 | 全般的な Over Haul 外 |
| 86. 4. 25 | Polygraph System, NEC San-Ei 360 | ¥9,660,000 | 1 Set | 1,800,280 | ECG Head Amp 外 交替 |
| | | | | ¥5,827,280 | |
| (重患者室) | | | | | |
| 86. 11. 21 | 3-Ch. E.K.G., Fukuda Denshi, FX-302 | ¥1,895,898 | 1 Set | 300,000 | 全般的な Over Haul |
| | | | | ¥23,247,800 | |
| | TOTAL | | | | |

母子保健に 關する 關係 資料

保健社會部

人口現況

主要人口指標

| 區分 | 1960 | 1970 | 1980 | 1990 | 2000 | 2021 | 1990 | | |
|--------------------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|-----------|-----------|-----------|
| | | | | | | | 世界 | 先進國 | 開發國 |
| 總人口(千名當) | 25,012 | 32,241 | 38,124 | 42,869 | 46,789 | 50,586 | 5,292,178 | 1,205,193 | 4,086,985 |
| 出生率(千名當) | 42.1 | 29.9 | 23.4 | 15.6 | 14.2 | 10.0 | 26.7 | 14.3 | 30.4 |
| 死亡率(千名當) | 12.1 | 9.4 | 6.7 | 5.8 | 6.1 | 9.7 | 9.6 | 9.7 | 9.6 |
| 自然人口增加率(%) | 3.00 | 2.04 | 1.67 | 0.98 | 0.81 | 0.03 | 1.71 | 0.46 | 2.08 |
| 移民率(千名當) | - | 0.4 | 1.0 | 0.5 | 0.4 | 0.4 | - | - | - |
| 人口成長率(%) | 3.00 | 2.02 | 1.57 | 0.93 | 0.77 | -0.01 | 1.71 | 0.46 | 2.08 |
| 人口密度(名/km ²) | 254 | 328 | 385 | 432 | 471 | 510 | 39 | 21 | 52 |
| 合計出產力(名) | 6.0 | 4.5 | 2.7 | 1.63 | 1.63 | 1.63 | 3.37 | 1.90 | 3.81 |
| 平均壽命 | 55.3 | 63.2 | 65.8 | 71.3 | 74.3 | 77.0 | 62.3 | 74.0 | 60.6 |
| 男子(名) | 53.0 | 59.8 | 62.7 | 67.4 | 71.3 | 74.9 | 60.8 | 70.4 | 59.4 |
| 女子(名) | 57.8 | 66.7 | 69.1 | 75.4 | 77.4 | 79.1 | 63.8 | 77.7 | 61.9 |
| 人口構造 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 | 100.0 |
| 0-14(%) | 42.3 | 42.1 | 34.0 | 25.8 | 21.2 | 15.8 | 32.4 | 21.4 | 35.6 |
| 15-64(%) | 54.8 | 54.6 | 62.2 | 69.2 | 72.0 | 71.1 | 61.4 | 66.5 | 60.0 |
| 65+(%) | 2.9 | 3.4 | 3.8 | 5.0 | 6.8 | 13.1 | 6.2 | 12.1 | 4.4 |
| 扶養比 | 82.6 | 83.9 | 60.7 | 44.5 | 33.8 | 40.6 | 61.3 | 50.3 | 65.0 |
| 平均年齡(歲) | - | 23.6 | 26.0 | 29.5 | 32.9 | 39.8 | 28.3 | 35.6 | 26.1 |
| 都市化率(%) | 28.0 | 41.1 | 57.3 | 74.4 | 80.6 | - | 42.7 | 72.7 | 33.9 |

註：1) 自然人口增加率 = 出生率 - 死亡率

2) 人口成長率 = 出生率 - 死亡率 - 移民率

3) 扶養比 = (15歲未滿人口 + 65歲以上人口) / (15-64歲人口)

* 資料：統計廳，將來人口推計，'91.4

2. 母子保健現況

1) 母子保健 對象人口

單位：千名

| 區分 | 1985 | 1990 | 1993 | 2000 | 2021 |
|-------------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| 總人口 (%) | 40,806 (100.0) | 42,793 (100.0) | 44,056 (100.0) | 40,789 (100.0) | 50,586 (100.0) |
| 母子保健 對象人口 計 | 14,897 | 14,977 | 15,919 | 16,691 | 13,231 |
| (%) | (36.5) | (35.0) | (36.1) | (35.6) | (26.2) |
| 0-5 歲 | 4,661 | 3,971 | 3,948 | 4,032 | 3,007 |
| (%) | (11.4) | (9.3) | (8.9) | (8.6) | (5.9) |
| 妊婦 | 669 | 701 | 705 | 686 | 503 |
| (%) | (1.6) | (1.6) | (1.6) | (1.5) | (1.0) |
| 15-44 女子人口 (妊婦除外) | 9,567 | 10,305 | 11,266 | 11,973 | 9,721 |
| (%) | (23.5) | (24.1) | (25.6) | (25.6) | (19.2) |

※ 資料：統計廳, 將來人口推進 '91.4

2) 母子保健水準

嬰兒 新生兒死亡率 國際比較

| 區分 | 國名 | 韓國 ('90) | Singapore ('88) | 日本 ('89) | 米國 ('88) | 英國 ('88) |
|-------------|----|--------------|---------------------|--------------|--------------|--------------|
| 嬰兒死亡率(千名當) | | 12.8 | 7.0 | 4.4 | 9.9 | 9.0 |
| 母性死亡率(百萬名當) | | 3.0 | 0.7 | 0.96 | 0.66 | 0.59 |

※ 資料：統計廳, 死亡原因 統計年譜, '90

| 區分 | '82 | '85 | '89 | '91 |
|-------|------|------|------|------|
| 施設分娩率 | | | | |
| 全國 | 62.9 | 75.2 | 87.8 | 98.9 |
| 市部 | 79.2 | 84.4 | 88.5 | 99.8 |
| 郡部 | 35.8 | 50.9 | 88.9 | 94.8 |
| 産前診察率 | | | | |
| 全國 | 69.3 | 82.4 | 88.5 | 95.1 |
| 市部 | 77.3 | 86.7 | 92.4 | 95.3 |
| 郡部 | 54.8 | 70.9 | 70.1 | 93.0 |

- ※ 資料 : 1) 韓國人口保健研究院 : 全國家族保健 實態調查報告 (1982)
 2) 韓國人口保健研究院 : 出産力 家族保健實態調查 (1985)
 3) 韓國人口保健研究院 : 全國出産力 家族保健實態調查 (1989)
 4) 韓國人口保健研究院 : 全國出産力 家族保健實態調查

市道別 公共醫療機關現況

| 區分 | 計 (母子保健除外) | 地方公社 | 保健所 | 保健支所 | 保健診療所 | 保健 |
|-------|---------------|------|-----|-------|-------|----|
| 計 | 3,674 | 34 | 268 | 1,333 | 2,039 | 89 |
| Seoul | 23 | 1 | 22 | | | |
| 釜山 | 22 | 1 | 12 | 5 | 4 | |
| 大邱 | 8 | 1 | 7 | | | |
| 仁川 | 12 | 1 | 6 | 3 | 2 | |
| 光州 | 29 | | 4 | 9 | 16 | |
| 大田 | 18 | | 5 | 5 | 8 | 1 |
| 京畿 | 425 | 6 | 40 | 163 | 216 | 11 |
| 江原 | 261 | 6 | 22 | 91 | 142 | 14 |
| 忠北 | 273 | 2 | 13 | 93 | 165 | 9 |
| 忠南 | 424 | 4 | 20 | 158 | 242 | 7 |
| 全北 | 429 | 2 | 20 | 146 | 261 | 9 |
| 全南 | 589 | 3 | 27 | 214 | 345 | 15 |
| 慶北 | 607 | 3 | 34 | 230 | 340 | 14 |
| 慶南 | 491 | 2 | 32 | 204 | 253 | 7 |
| 濟州 | 63 | 2 | 4 | 12 | 45 | 2 |

醫療資源別 人口比率

| 年度別 | 指標 | 病床當人口 | 醫師 1人當人口 | 齒科醫師 人當人口 | 看護師 1人當人口 |
|------|----|-------|-------------|--------------|--------------|
| 1983 | | 479 | 1,336 | 8,655 | 805 |
| 1984 | | 432 | 1,278 | 8,127 | 747 |
| 1985 | | 408 | 1,222 | 7,507 | 690 |
| 1986 | | 382 | 1,155 | 6,870 | 641 |
| 1987 | | 363 | 1,077 | 6,149 | 595 |
| 1988 | | 348 | 1,005 | 5,482 | 551 |
| 1989 | | 335 | 973 | 4,910 | 512 |
| 1990 | | 324 | 885 | 4,449 | 482 |
| 1991 | | 300 | 838 | 4,268 | 454 |

醫療人力現況

| 區分 | 醫師 | 齒科醫師 | 韓醫師 | 助產師 | 看護師 | 藥師 | 醫療技士 | 看護助務士 |
|--------------|--------|--------|-------|-------|---------|--------|--------|---------|
| 免許登録数 | 48,406 | 11,286 | 6,846 | 8,009 | 101,135 | 39,577 | 53,980 | 152,966 |
| 醫療機關 就業者数 | 36,674 | 8,746 | 5,171 | 1,366 | 37,168 | 2,234 | 20,135 | 47,965 |
| 比率(%) | 75.8 | 77.5 | 75.5 | 17.1 | 36.8 | 5.6 | 37.3 | 31.4 |

醫療施設現況

| 種別 | 計 | 綜合病院 | 病院 | 齒科醫院 | 漢方醫院 | 醫院 | 附設醫院 | 助産所 |
|-----|---------|--------|--------|-------|-------|--------|------|-----|
| 病院数 | 24,658 | 231 | 368 | 6,452 | 4,751 | 12,331 | 272 | 253 |
| 病床数 | 147,480 | 73,837 | 35,186 | 66 | 1,834 | 35,244 | 973 | 340 |

母子保健センター人力

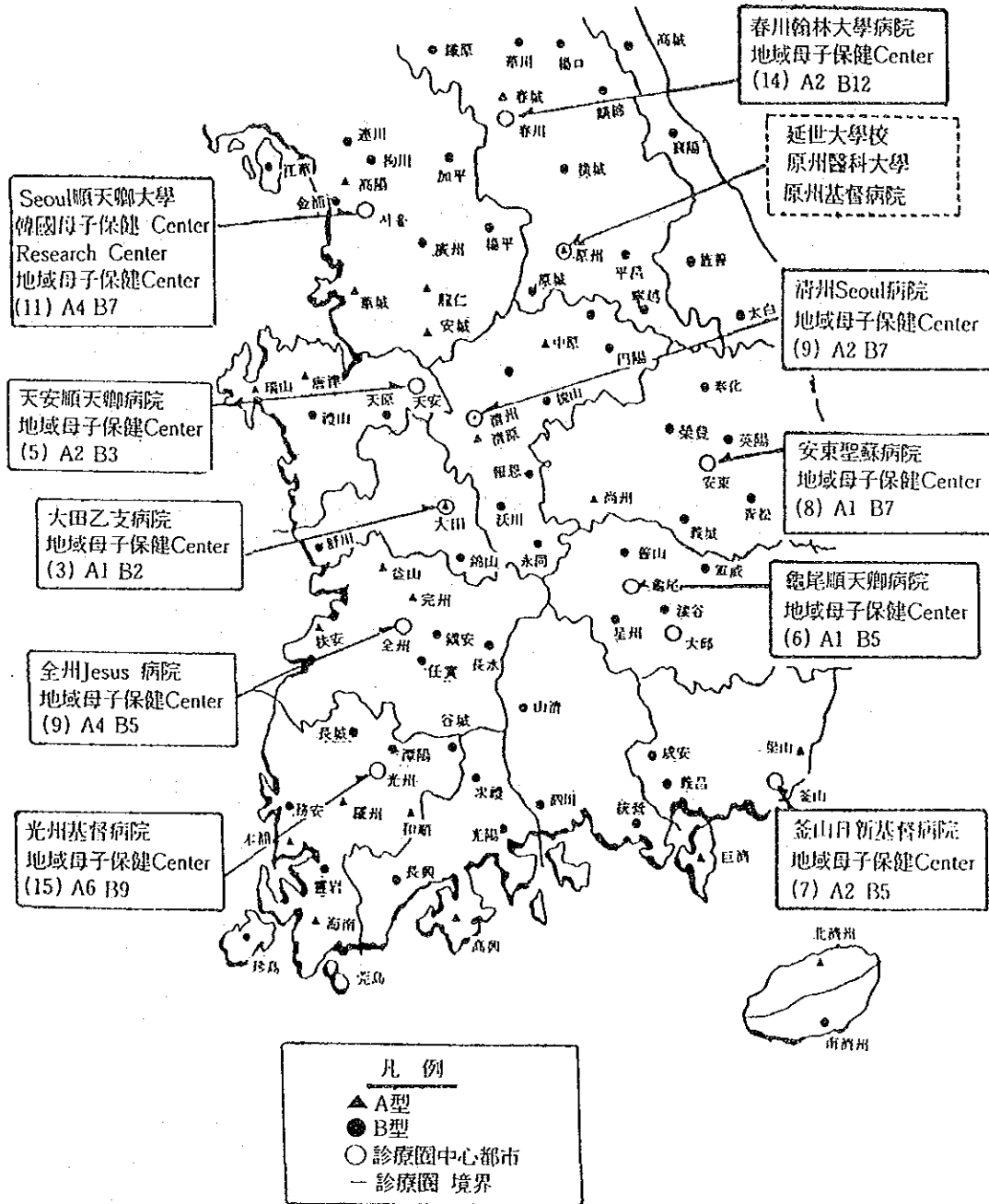
'92. 12. 31 現在

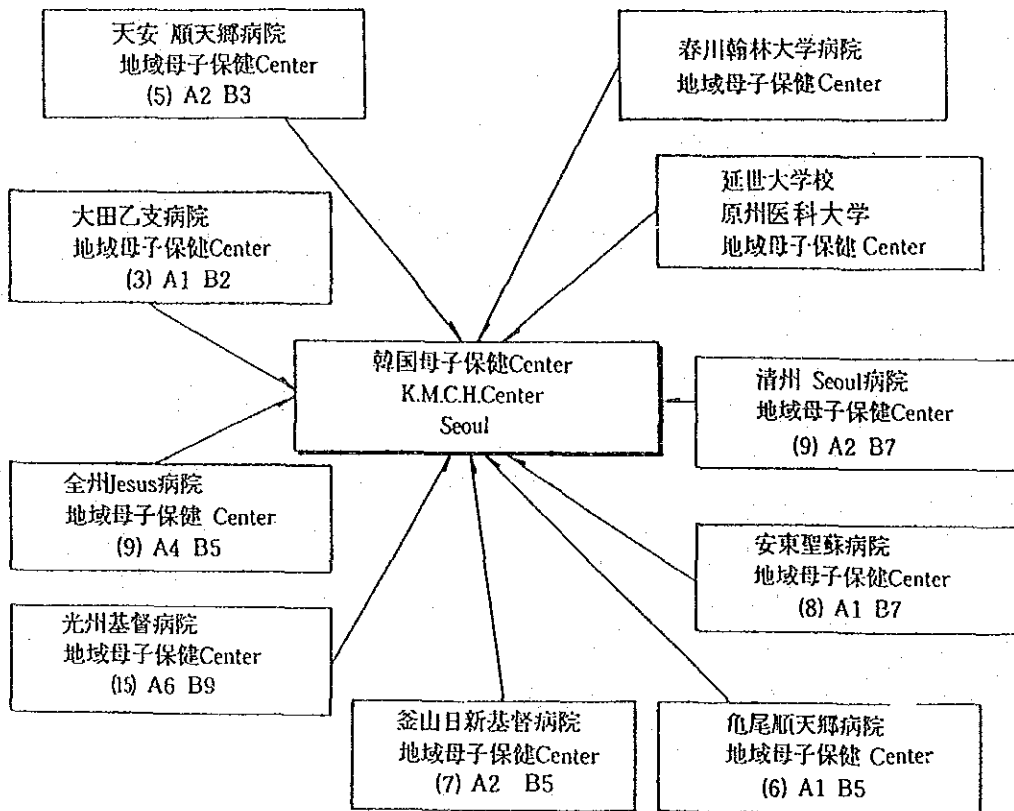
| | 計 | 医師 | 助産師 | 看護師 | 看護助務師 | 其他 |
|----|-----|----|-----|-----|-------|----|
| 計 | 666 | 63 | 213 | 192 | 155 | 43 |
| 釜山 | 15 | 3 | 7 | 5 | | |
| 大田 | 9 | 1 | 5 | 1 | 2 | |
| 光州 | 10 | 1 | 5 | 4 | | |
| 京畿 | 78 | 8 | 27 | 18 | 25 | |
| 江原 | 79 | 11 | 23 | 34 | 6 | 5 |
| 忠北 | 77 | 9 | 26 | 14 | 20 | 8 |
| 忠南 | 74 | 0 | 17 | 28 | 22 | 7 |
| 全北 | 74 | 7 | 30 | 23 | 14 | |
| 全南 | 139 | 11 | 39 | 32 | 38 | 19 |
| 慶北 | 69 | 9 | 19 | 21 | 20 | |
| 慶南 | 25 | 1 | 10 | 8 | 4 | 2 |
| 濟州 | 17 | 2 | 5 | 4 | 4 | 2 |

母子病院センター現況

| 市.道 | IBRD 借款建立 | | | 既存 センター | 綜合センター | 備 考 |
|-----|-----------|----|----|------------|------------|--|
| | 計 | A型 | B型 | | | |
| | 77 | 25 | 52 | 2 | 12 | |
| 釜山 | | | | 1 | Seoul順天郷病院 | ○ 母子保健センター A型：325坪（16病床） B型：222坪（6病床） ＊ 病院化保健所：12個所 ＊ IBRD借款導入センター：77個所 ＊ 既存センター：7個所 （既存センター5個所 閉鎖） ＊ 慶南 蔚州：'90.3 ＊ 固城：'90.9 ＊ 大田市 助産室：'90.6.4 ＊ 大邱 南歐：'91.11.28 ＊ 慶南 昌寧郡：'92.2 |
| 大田 | 1 | | | | 龜尾順天郷病院 | |
| 光州 | | | | 1 | 天安順天郷病院 | |
| 京畿 | 10 | 4 | 6 | | 春川聖心病院 | |
| 江原 | 12 | 2 | 10 | | 清州リラ病院 | |
| 忠北 | 9 | 2 | 7 | | 全州クリスト病院 | |
| 忠南 | 7 | 2 | 5 | | 光州基督病院 | |
| 全北 | 8 | 4 | 4 | | 安東聖蘇病院 | |
| 全南 | 11 | 5 | 6 | | 釜山日新基督病院 | |
| 慶北 | 12 | 2 | 10 | | 原州基督病院 | |
| 慶南 | 5 | 2 | 3 | | 大田乙支病院 | |
| 濟州 | 2 | 1 | 1 | | 上溪白病院 | |

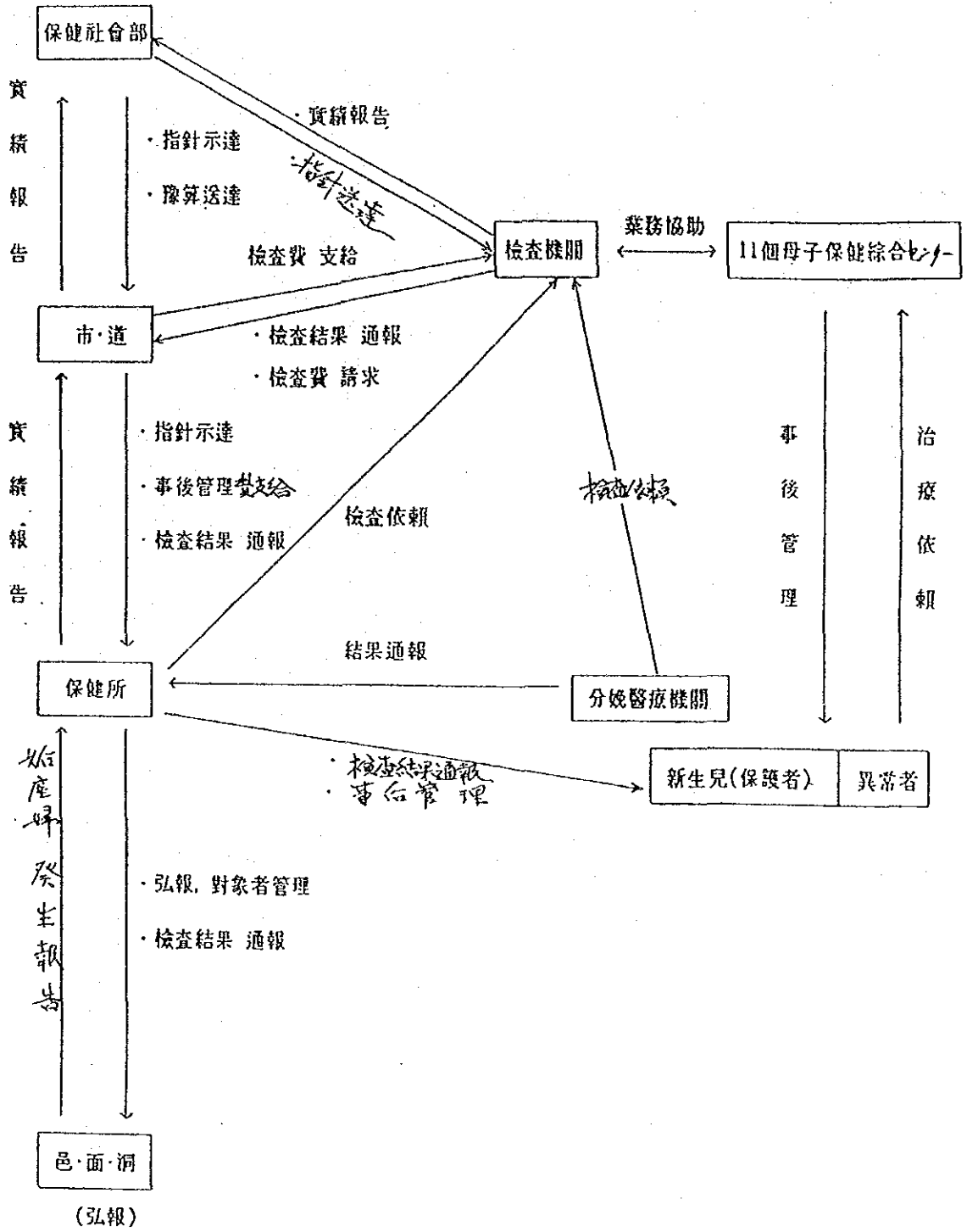
診察圈別母子保健Center 及 地域母子保健綜合Center分布圖
 (The Distribution Chart of Catchment Areas)





※ ()内の数字は 1個所の地域母子保健総合センターで管轄する郡母子保健所の数。

先天性代謝異常 検査事業 體系



母子保健 事業

1992年度 母子保健事業の 施策方向は 母子保健要員に 對し 専門技術教育實施と 豫防接種の 適期接種實施で 免疫効果を 向上し 妊産婦申告制度確立にて 對象者管理定着と 高危険妊産婦の 遺傳相談實施及 先天性代謝異常検査で 優生學的 豫防事業を 展開して 母子保健手帖活用を 定着化させる一方 母乳授乳勸奨事業を 積極弘報する等 1992年度 政府母子保健事業は 母性と 嬰乳兒の 健康管理及 人口資質向上と 對國民保健教育、弘報に 力點を 置く。

1979年 世界銀行(IBRD)から 人口借款を 導入し 全國醫療脆弱地、農漁村地域に 妊産婦、嬰乳兒、健康管理と 分娩介助及 施設分娩誘導に 目的をし 77個所の 母子保健センターを 建立した 當時としても 全國平均施設分娩率が 60% 未滿で あつたが 其の後 國民所得及 醫療水準の 向上と 全國民醫療保險の 擴大等で 現在 全國施設分娩率(平均) 98%を 上廻っているし、言はば 急變する 經濟社會與件に 伴う 我國 母子保健事業の 推進方向も 轉換期を 向えるようになった。

従つて 次後の 政府母子保健事業(公共部門)は 妊産婦、嬰乳兒に 對する 良質の 健康診断實施を 筆頭として 妊産婦に 對する 産前産後管理及 豫防次元の 嬰乳兒 基本豫防接種の 補給擴大、低所得層を 對象として 實施している 先天性代謝異常検査の 擴大實施と 母乳授乳勸奨運動展開等 對國民弘報及 弘報資料開發に 力點を 置き 實施する事である。又 妊産婦と 嬰乳兒及 地域住民の 問題解決と 必要に 應じ 特殊事業を 開發して 施行するを 勸奨して 效率的であつて 良質の 母子保健事業を 推進するが 爲に 努力したし、民間部門の 母子保健事業としては 全國 12個 母子保健綜合センターの 専門人力と 施設裝備等を 積極活用して 診療部門の 母子保健業務と 母子保健要員の 技術教育訓練及 調査研究業務を 積極推進して 民官協力體系を 確立し 地域實情に 以合う 母子保健事業の 重要役割を 擔當するようになつて 保健事業の 活性化を 期して 人口資質向上と 國民保健向上に 寄與しようとする。

1) 先天性 代謝異常 検査

新生兒に 對する 代謝異常を 早期に 検査させ 治療するに 従い 精神遲滯兒 發生を 防止するが 爲に 集團檢診事業で 低所得層 子女 20,100名を 對象として 發生頻度が高い 先天性 甲状腺 機能 低下症外 5種に 對し 檢診事業を 推進した 結果、總 検査人員 20,302名中 検査異常 實績は 先天性 甲状腺 機能 低下症 7名で 此れに 對しては 發見即時 精密検査及 び 治療を 實施して 精神遲滯兒 發生を 未然に 防止した。目標對 検査實績は 表1の 如く である。

表 1. '92年度 先天性 代謝異常 目標対 実績 (単位: 名)

| 區 分 | 検査目標量 | 検査実績 | 異常者 (疾患名) |
|-----|--------|--------|---|
| 計 | 20,100 | 20,302 | Seoul 1 京 畿 1 江 原 3 慶 北 1 濟 州 1 |

向後 先天性 代謝異常 検査は 異常者 発見事例が多い 疾患を 中心にして 集団検診を 行うとしており 検査要員の 教育等を通じ 精度管理をしようと思う。

2) 妊婦及 嬰乳児 登録管理

全対象者を 把握して 漏れなく 申告登録させ 徹底な 管理を 実施するに 當つて 高危険要因を 事前発見, 豫防するを 目的として 妊婦 68千名と 嬰乳児 297千名を 目標にして 推進した 結果, 妊婦 実績 82.9千名 (122%), 嬰乳児 350.7千名の 実績を 表した。

以后は 保健所に 登録した 人が 特別待遇を 受けるように サービス 開発を 実施すると 共に 又 公共機関の 親近感と 接近度を 高めて 公信力 獲得にも 積極努力する 計画である。

3) 健康 診断

保健所に 登録管理中の 低所得層及び 健康診断が 必要な 対象者に 對する 繼續管理と 醫療サービス 提供等で 基礎健康を 早期診断して 異常があった 場合 母子保健 指定病院等に 精密検査 実施, 依頼等 民間部門と 連繋して 早期治療を させて 健康の 危険要件を 事前に 除去させるが爲の 妊産婦及び 嬰乳児の 健康診断 実績は 表 2 同じである。

表 2. 高危険 妊産婦, 嬰乳児 健康診断 実績 (単位: 名)

| 區 分 | 目 標 | 實 績 (率) | 備 考 |
|-----|--------|-----------------|-----|
| 妊産婦 | 30,800 | 35,011 (113.7%) | |
| 嬰乳児 | 30,800 | 36,976 (120.0%) | |

以后 妊産婦, 嬰乳児 健康診断事業は 保健所で 登録管理している 總べての 対象者には 検査項目を 擴大して 疾病を 早期 発見, 適期に 治療する 事が出来るよう 能動的に 對處して 行く 事である。

4) 嬰乳児 豫防接種

嬰乳児に對する 適期接種を 實施するに 當り 最も 効果的な 人工免疫を 獲得して 傳染病からより 感染を 防止するを 目的とし 生後 2個月から 満 6歳まで 基本豫防接種を 實施するようにした所、其の 實績は 表 3と 同じである。

表 3. 高危険 妊産婦、嬰乳児 健康診断 實績 (單位：千名)

| 接種種類 | 1992年度 目標 | 實績 | % |
|--------------------|------------------|------------------|-----------------|
| P.D.T.外 3種 (無料) | 5,780 (3,818) | 5,807 (3,595) | 100.5 (94.2) |

1993年度から 接種水準は P.D.T., D.T., Polio, M.M.R.を 保健所と 病(醫)院、家協附屬醫院等を通じて 全對象人口に 適期に 實施した。DT容器も 20mlから 10ml 單位容器で 小包裝して 免疫効果を 高させる 事であつて 國民學校 1學年生には DTと Polioを 追加接種する等 學校保健法とも 連繫運用出来るように する事である。

従つて 1992.6.8. 保健社會部 訓令 第 680號で 豫防接種審議委員會 規定を 制定して 豫防接種審議委員會を 構成したし、同 委員會では 豫防接種を しなければならぬ 傳染病の追加指定と 指定解除及び 豫防接種の 實施基準と 方法等 必要な 事項を 審議するようにした。

5) 母子保健センター 運営

適正水準の 保健醫療惠澤を 受けられぬようになっている 農漁村地域の 妊産婦、嬰乳児の 健康管理と 施設分娩誘導で 人口の 資質向上を 期したく 1985年 世界銀行人口借款で 全國に設置した 77個 母子保健センターは 1989年 8月 全國民醫療保險 擴大實施に 依り 其の機能は新しい 局面に 接する 事となつた。

従つて 過去 施設分娩率が 低つた 時節に 比べ 現在は 全國施設分娩率が 98% (平均)を上廻するに 當り、センターの 機能中 分娩介助機能は 各 センターに 依つては 地域住民に 實效性を 當えられぬ 機能から 轉落し センターの 任務變更が 不可避する 事となつた。従つて 1991年11月29日 母子保健センター 運営指針改正の 爲に 母子保健審議委員會を 召集して 分娩改造機能が 地域住民に 實效性を 周知されぬ 18個 センターに對して 分娩機能自律化を 骨にする 運営指針を 改正、示達した所である。

分娩介助機能が 廢止される センターでは 對替事業として 家庭訪問看護事業又は 健康教室、物理治療室 運営等 地域住民の 必要性と 接近度が 高い 地域特性に 合う 新しい 事業を 開發運営するようになる。

従つて 分娩改造等 母子保健事業は 民間部門から 主導するようになり、政府母子保健事業は 豫防次元 (産前、産後管理、基本豫防接種、先天性 代謝異常檢診、保健教育及び 弘報事業開發)事業に 置重する 事になる。

1992年度 母子保健センター- 実績 (79箇所)

事業実績 (前年度 実績 対比及 比率)

- 産前 管理 : 78,726 件 (73,003 件 / 107.8%)
- 産後 管理 : 25,222 件 (23,938 件 / 105.4%)
- 乳児管理 : 211,710 件 (170,995 件 / 123.8%)
- 予防 接種 : 418,562 件 (373,759 件 / 112.0%)
- 分娩 介助 : 3,632 件 (4,825 件 / 75.3%)
- 教育及弘報 : 699,591 件 (699,071 件 / 104.6%)

以後 母子保健センター- 運営指針は 既に 改正配布した 母子保健センター- 運営指針に 従って 運営実施結果を 観望して 段階的に 地域実情に 合う 能動的に 対処して 行く事である。

'92 母子保健事業實績 '93 計劃

(單位：名)

| 事業名 | '92目標 | '92實績 | '93計劃 | 備考 |
|------------------|-----------|-----------|-----------|----|
| * 申告 登錄管理 | | | | |
| -妊婦申告 | 297,000 | 326,805 | 311,000 | |
| -妊婦登錄 | 68,000 | 82,935 | 71,700 | |
| -嬰兒登錄 | 297,000 | 350,708 | 311,000 | |
| * 健康診斷 | | | | |
| -妊產婦 | 30,800 | 35,011 | 25,476 | |
| -嬰兒 | 30,800 | 36,976 | 25,476 | |
| * 預防接種 | | | | |
| -P.T.D | 1,208,000 | 1,192,293 | 1,204,000 | |
| -M.M.R | 356,000 | 333,881 | 331,000 | |
| -Polio | 1,466,000 | 1,482,836 | 1,454,000 | |
| -D.T | 614,000 | 583,641 | 581,000 | |
| -紅疫 | 174,000 | 1,891 | - | |
| * 先天性 代謝異狀 檢查 | 20,100 | 20,302 | 35,094 | |

JICA